

生命医科学部 履修要項
Faculty of Life and Medical Sciences

2020

【2020 年度生対象】

医工学科

Department of Biomedical Engineering

医情報学科

Department of Biomedical Sciences and Informatics

医生命システム学科

Department of Medical Life Systems

CONTENTS

目次

1. 科目履修について	4
・学位の取得に必要なこと / 単位制について / セメスター制について	
・生命医科学部授業科目について / 「免許資格関係科目」と「自由科目」について	
2. 登録単位数・GPA 制度による成績評価について	7
・登録単位数の制限	
・GPA 制度の概要	
・履修中止制度 / 追試験制度 / 成績評価結果の公表	
・科目担当者による授業講評 / クレーム・コミッティ制度	
3. 免許・資格課程の履修について	10
・教職課程について	
4. サイエンスコミュニケーター養成副専攻について	11
・サイエンスコミュニケーター養成副専攻とは / 履修にあたって	
修了要件 / サイエンスコミュニケーター養成副専攻認定科目	
5. 各種手続・その他注意事項について	15
・授業時間・試験時間 / 警報時の取扱い / 身上変更について	
・在学年限および休学可能期間について / 休学・退学について / 卒業見込について /	
学費について / 各種証明書について	
・学生への連絡について / 各種窓口について / 欠席届について / 休講・補講について	
6. 各学科カリキュラムについて	18
・【医工学科】	19
・【医情報学科】	24
・【医生命システム学科】	30
・【選択科目 B 群】（全学科共通）設置科目	
・【外国語による科目の開講について】	
同志社大学学部学則、学部一般内規	43
外国留学に関する諸規程	56
学業履修について	58
交通機関不通と暴風警報に伴う授業・試験の取扱い	63
生命医科学部教員名簿	65

【重要】 本要項は 2020 年度生対象です。

2020 年度に配布する『生命医科学部 履修要項』（本冊子）は卒業まで大切に保管し、今後も活用してください。

2021 年度以降は、新入生以外には『生命医科学部 履修要項』冊子を配布いたしません。

今後、以下情報は WEB **【生命医科学部ホームページ「科目登録・履修について」や大学ホームページ】**にてお知らせします。

〈掲載サイト〉

<https://biomedical.doshisha.ac.jp/class-registration/documents.html>

〈掲載情報〉

- ・生命医科学部 履修要項（各年度の新入生向け）
- ・生命医科学部 開講科目一覧
- ・授業時間割表
- ・生命医科学部 登録要領

【重要】履修要項 掲載情報の更新・変更について

履修要項に掲載している情報に更新・変更があった場合は生命医科学部ホームページにてコンテンツごとに変更内容を反映した状態の最新版のみ掲載します。具体的な更新・変更履歴は「更新・変更情報」ページからご確認ください。

教育研究の目的

医療、福祉、健康等「生命」に関連する幅広いフィールドで、医学及び工学の複眼的視点から創意工夫をもって課題解決へと導くことのできるバイオメディカルエンジニア、医生命科学者を養成することを目的とし、医工学に重点をおいた生命医科学の教育研究活動を展開します。

また、理工学部、文化情報学部、スポーツ健康科学部等を中心として、本学の総合力を基盤に、理工学ならびに健康科学分野と密に連携することによって、基礎医学、生物学、倫理学等多様な学問との融合的な教育研究を行います。

人材養成の目的

生命医科学部は、生命現象の本質を科学的に理解すると同時に、その制御機能を多角的な視点から明らかにする教育研究活動をとおして、生命医科学に関連するさまざまな課題に対して、工学ならびに理学を基盤とする総合的な知識と関連する技術を身に付けて、健康・医療に関する様々な社会的要請に対応できる人材を養成することを目的とする。

医工学科は、ヒトを生体システムとして捉え、機械工学と医学の融合領域において、再生医療、バイオメカニクス、バイオマテリアル、及びバイオリボティクスの分野について、講義と実験実習をとおして、問題設定能力と問題解決能力を身に付けて、民間企業や官民の研究機関、教育機関等において活躍する人材を養成することを目的とする。

医情報学科は、生体情報の取得・制御に関する知識や技能と、生体情報処理機構を次世代高度情報システムの構築へと展開できる応用力について、幅広いリベラルアーツと自然科学基礎、電子・情報工学、生体情報、脳科学に関する講義や演習、実験、卒業研究をとおして、自発的に問題発見・解決を行い、それを伝えることのできる創造力を身に付けて、企業や研究所等において活躍する人材を養成することを目的とする。

医生命システム学科は、ヒトをひとつの生命システムと捉え、それを維持する生理機構やその破綻による各種疾病の発症機構、さらにはその治療・予防について、生命科学、薬学、基礎医学、臨床医学に関する講義、ならびにこれらと密接に関連した実験実習をとおして、体系的な理解能力と実践的な問題解決能力を身に付けて、生命科学、基礎医学、健康科学の関連分野において活躍する人材を養成することを目的とする。

01 科目履修について

■学位の取得に必要なこと

生命医科学部で学位を取得するためには、4年以上修学し（※休学期間は修学期間には含まれません）、所属する学科が定めるカリキュラムに沿って授業科目を履修して所定の単位（「卒業のための要件」を満たすための単位。以後、「卒業単位」と表記します）を修得しなければなりません。卒業要件を満たした場合、卒業する学科によって次の学位が授与されます。



■単位制について

学部ごとの教育課程（カリキュラム）に定められた科目を登録・履修し、試験に合格することにより、それぞれの科目所定の単位を得て、修業年限中に卒業に必要な単位数を修得していく制度です。

■ Semester制について

同志社大学ではビジネス研究科を除くすべての学部・研究科で「Semester制」を実施しています。Semester制では、1年を2つの学期（春学期、秋学期）に分け、学期ごとに授業が完結し、試験を行って成績評価をすることになります。各学期終了後、成績を通知します。

ただし、履修科目の登録については、秋学期に履修する科目も春学期の登録期間に登録してください。

■ 生命医科学部授業科目について

■ 必修科目

学部の専門分野を学ぶ上で核となる科目群です。段階的に学べるよう、科目ごとに履修年次が定められています。

■ 選択科目

卒業に必要な単位として認められる科目のうち、必修科目以外の科目を指します。生命医科学部の選択科目は、医工学科・医情報学科はA群～C群に、医生命システム学科は、A群とB群に分類されます。

A群	生命医科学部関連科目です。各学科「開講科目一覧」に「カリキュラム系統図」を掲載しています。関連のある科目を確認してください。	
B群	I類	全学共通教養教育科目 外国語教育科目の「英語」科目
	II類	全学共通教養教育科目 外国語教育科目の「ドイツ語」「フランス語」科目
	III類	<p>【全学共通教養教育科目】 同志社科目をはじめとする各教養教育科目を履修できます。詳細は該当する入学年度の『全学共通教養教育科目履修要項』（別冊）を参照してください（入学年度により履修できる科目群・科目区分・科目が異なります）。</p> <p>【教職免許関係科目】</p> <p>【他学部設置科目】</p> <p>【単位互換科目】（同志社女子大学、大学コンソーシアム京都単位互換科目）</p>
C群	教職免許関係科目	
日本語・日本文化教育科目	外国人留学生が登録履修できる科目 詳細は『日本語・日本文化教育科目履修の手引き』（別冊）を参照してください。	

■ 自由科目

単位を修得しても卒業に必要な単位として認められません。ただし、自由科目が免許・資格関係科目に該当する場合は、免許・資格関係の単位として認められます。

■免許・資格関係科目

教員免許や図書館司書、学校図書館司書教諭、博物館学芸員の資格取得に履修が必要な科目を「免許・資格関係科目」として、最高登録単位数には含まずに登録・履修することができます。科目登録時に登録コードの種別欄で「M」を選択して登録してください（免許資格に関する「自由科目」にも「M」登録できます）。ただし、「免許・資格関係科目」として登録した場合は、卒業単位には算入されません。

< 「M」登録について >

- ・免許資格関係科目の登録種別欄で「M」を選択して登録（M登録）するには、履修を希望する免許資格課程の「**仮登録（一般登録期間にDUETにて可能）**」もしくは「**課程登録（説明会出席等の所定手続が必要）**」を必ず行わなければなりません。手続方法は免許資格課程や年次によって異なるので免許資格課程センターの掲示で確認を行ってください。「仮登録」もしくは「課程登録」が完了していない場合は登録エラーとなります。

1年間に登録できる単位数には制限があります（7頁参照）ので、免許・資格の課程を履修する場合は、上限の中で卒業単位との兼ね合いを考え計画的に履修することが必要です。免許・資格関係科目として1年間に登録できる最高登録単位数は、年間最高登録単位数とは別に、1課程では18単位、2課程以上の場合には22単位です。

⇒免許・資格課程の履修については、「3. 免許・資格課程の履修について」（10頁）及び『免許・資格関係履修要項』を参照してください。

【免許・資格関係科目としての年間登録単位数】

1 課程履修⇒18単位以内

2 課程履修（例：教職課程と図書館司書課程）⇒22単位以内

■自由科目

卒業に必要な単位として算入しない科目を自由科目といいます。開講科目一覧表の「科目群」欄に「自由科目」と表示されている科目は「自由科目」として扱われます。また、科目登録時に登録種別「Z」を選択して登録することにより、任意の科目を自由科目として履修することが可能です。自由科目は卒業単位やGPAには算入されませんが登録単位数には算入されますので、注意してください。

【科目群の性格】

	免許資格関係科目	自由科目
GPA（平均点）への算入は？	× NO（算入しない）	× NO（算入しない）
上限単位を超えての登録は？	○ YES（登録可） （科目登録時にMを選択して登録する）	× NO（登録不可）
卒業単位への算入は？	× NO（算入しない）	× NO（算入しない）
免許資格取得に有効か？	○ YES（有効）	○ YES（有効）

02 登録単位数・GPA 制度による成績評価について

■登録単位数の制限

(1) 1年間の登録単位数の上限

1年間に登録できる単位数は以下のとおり定められています。

年間登録最高単位数	48 単位
semester登録最高単位数	30 単位
semester登録最低必要単位数	1 単位

(2) 「免許・資格関係科目」として登録する場合の上限

免許資格の取得を目的とする場合、科目登録の際に「免許・資格関係科目」として申請すれば、(1)の上限を超えて登録することができます。(6頁参照)

■GPA 制度による成績評価について

GPA 制度は、大学教育における成績評価制度のグローバル・スタンダードとして、現在、国際的にもっとも認知度の高い制度です。大学教育の国際的競争環境に関する教員と学生双方の自覚を高め、GPA を核とした的確な履修指導や学修支援システムを充実させることにより、学生の自立的な自己教育を支援し、本学の教育を質的に一層向上させることを目的としています。

■GPA 制度の概要

各科目の成績評価を以下の判定基準にしたがい、5段階（A、B、C、D、F）で評価し、各成績評価段階に4.0～0.0の評点（Grade Point）を付与して、1単位あたりの評定平均値（Grade Point Average）を算出する方法です。GPA は、不合格を意味する F 評価の成績を含めて以下の計算式で算出しますが、F 評価であった科目を再履修して D 以上の評価を得た場合、最後についた F 評価は新たな評価に書き換えられて算出されます。

【 判定基準 】

評価	評点	判定内容
A	4.0	特に優れた成績を示した
B	3.0	優れた成績を示した
C	2.0	妥当と認められる成績を示した
D	1.0	合格と認められる最低限度の成績を示した
F	0.0	合格と認められるに足る成績を示さなかった

【 GPA 算出方法 】

$$\frac{(A \times 4.0 + B \times 3.0 + C \times 2.0 + D \times 1.0 + F \times 0.0)}{(A + B + C + D + F)}$$

①～⑥は A～F の評価がついた科目の単位数の合計

成績通知書には履修した全ての科目の評価と GPA が記載され、成績証明書には不合格科目を除く履修した全ての科目の評価と GPA が記載されます。

なお、一部「合格／不合格」や「認定」で成績評価される科目もあり、当該科目は GPA には算入されません。

【 成績評価の書き換えについて 】

F 評価であった科目を再履修して D 評価以上を得た場合、直近の F 評価は新たな評価に書き換えられます。

(例)

<再履修回数 1 回の場合>

履修年度	科目名・クラス	評価	書き換え	履修年度	科目名・クラス	評価
2020	公衆衛生学	F	⇒	2021	公衆衛生学	C

2020 年度の「F」評価が 2021 年度の「C」評価によって書き換えられます。書き換えられたことによって 2020 年度の「F」評価の評点「0.0」は算入されなくなります。

<再履修回数 2 回の場合>

履修年度	科目名・クラス	評価	成績確定	履修年度	科目名・クラス	評価
2019	公衆衛生学	F	書き換え	2019	公衆衛生学	F
2020	公衆衛生学	F		⇒	2021	公衆衛生学

2021 年度の「C」評価によって 2019 年度の「F」評価は確定。よって以後の成績通知書にこの「F」評価が記載されるとともに評点「0.0」が算入されます。

2020 年度の「F」評価が 2021 年度の「C」評価によって書き換えられます。書き換えられたことによって 2020 年度の「F」評価の評点「0.0」は算入されなくなります。

(注意事項)

「大学コンソーシアム京都単位互換科目」「同志社女子大学単位互換科目」「プロジェクト科目」は成績を書き換えません。

■履修中止制度

1 ヶ月程度授業を受講し、望ましい評価が得られないと判断した科目については、定められた期間中に、一定の条件のもとに、登録科目の履修中止を認めます。

■追試験制度

全年次生を対象として病気またはやむを得ない理由により、定期試験または生命医科学部教授会が認める臨時試験 (中間テストなど) を受験できなかった場合、追試験の申請を行うことができます。詳細については「学業履修について」(58 頁)、大学ホームページおよび学内の掲示板で確認してください。

■成績評価結果の公表

各学部・研究科が定める科目を除き、授業クラスごとの平均点および評点の分布を大学ホームページ上で公表します。

■科目担当者による授業講評

科目担当者が、学期末試験やレポート試験結果などを含めた授業関連活動に関する講評を、大学ホームページ上で公開します。この講評は、教員と学生間の教育的フィードバックを目的として実施されています。

■クレーム・コミッティ制度

厳格な成績評価制度の導入に伴い、大学は学生により質の高い教育を提供していかなければなりません。このため、大学が学生からの授業内容・授業方法に関する改善の要望を受け付け、調査し回答するために、クレーム・コミッティ制度を設けています。

（ 注意事項 ）

受講している科目の授業内容や授業方法に関する改善の要望がある場合は、京田辺キャンパス教務センターに申し出てください。なお、いかなる場合であっても、相談者の学生 ID や氏名が授業担当者に明かされることはなく、相談によって不利益を被ることはありません。

03 免許・資格課程の履修について

本学では、次の4課程を設置しており、「免許・資格」と記載する場合はこれら4課程を指します。

・教職課程 ・博物館学芸員課程 ・図書館司書課程 ・学校図書館司書教諭課程

免許・資格課程の履修の詳細については、『免許・資格関係履修要項』で確認してください。なお、教職課程のカリキュラムは入学年度によって異なりますので、必ず自身の入学年度に応じた『免許・資格関係履修要項』を参照してください。

各課程で修得が必要な科目のうち複数の課程で重複している科目は、修得すれば該当の何れの課程の単位としても認められます。なお、免許・資格関係に関する連絡事項は免許資格課程センターの掲示板で周知されますので、注意してください。

■教職課程について

【取得できる教員免許教科】

医工学科	⇒	中一種免（数学・理科）	高一種免（数学・理科）
医情報学科	⇒	中一種免（数学・理科）	高一種免（数学・理科）
医生命システム学科 (理科)	⇒	中一種免（理科）	高一種免

【教職課程の科目について】

教員免許状取得資格については『教育職員免許法・同施行規則』に定められており、次の分類について定められた単位を修得しなければなりません。各分類と本学の科目の対応については、『免許・資格関係履修要項』で確認してください。

【博物館学芸員課程・図書館司書課程・学校図書館司書教諭課程の科目について】

これら3課程の科目は、それぞれ「博物館法施行規則等」「図書館施行規則に定める科目」「学校図書館司書教諭講習規程に定める科目」に定められています。各法令に定められた科目と本学の科目との対応は、『免許・資格関係履修要項』で確認してください。

※科目の登録について、不明な点があれば、京田辺キャンパス教務センターへ申し出てください。

04 サイエンスコミュニケーター養成副専攻について

■サイエンスコミュニケーター養成副専攻とは

本副専攻は、文系理系を問わず参画学部 of 学生を対象に、科学分野でおこる社会問題を正しく読み解き、解説できる人材を養成する学部横断型副専攻（教育プログラム）です。地震などによる災害、原発事故、環境問題、STAP 細胞問題、医学部や製薬企業などのデータ改ざん・論文ねつ造などが大きな社会問題となっている今日、科学リテラシーをもつ人材は、企業を含め広く社会から求められています。

科学リテラシーとは、自然界で起こる様々な事象や変化を正しく理解し、自己の意思決定をするために、科学的知識を用いて問題を明確にしたうえで結論を導き出す能力のことです。本副専攻において、理系学生は、社会の要請を敏感に感じ取り、正確かつわかりやすい表現で説明する能力を身につけます。

文系学生は、社会問題につながる科学技術分野、なかでも健康と環境に関わる分野の基礎理解と評価力を習得します。履修生の就職先は、各種企業、マスコミ、出版社、教育機関そして官庁などを想定していますが、研究倫理や科学リテラシーを履修した学生は今後、社会のあらゆる分野において活躍が期待されます。

■履修にあたって

- 本副専攻の履修を希望する場合、春学期一般登録期間までに**申請が必要**です。履修希望者は『登録要領』（別冊）に記載された申請要領に従い、申請手続を行ってください。選考の上、副専攻履修可否を決定します。なお、選考により不許可となった場合、当該年度内は再度申請できません。
- 2年次生以上が申請可能です。
- 副専攻認定科目のうち、副専攻履修許可者のみ登録履修が許可される科目があります。副専攻履修許可者以外が該当科目を登録した場合は、科目登録を強制削除するので注意してください。
- 副専攻認定科目のうち卒業必要単位としても算入される科目があります。学科によって取り扱いが異なりますので、各科目の算入可否および算入されるカリキュラムなどの詳細については「副専攻認定科目一覧表」を確認してください。
- 申請年度より以前に修得していた単位も遡及して認定単位として算入されます。
- 所定単位を完修した場合には、卒業時から副専攻履修証明書の発行が可能です。また、副専攻認定科目の修得状況と科目登録状況をあわせた結果、修了見込となった場合には、履修中に副専攻履修見込証明書の発行が可能です。

■修了要件

- 修了必要単位数：20単位

履 修 体 系	必 要 単 位 数
サイエンスリテラシー科目群	12単位以上
コミュニケーター関連科目群 ※各選択グループ（選択（1）～選択（4））から算入されるのはグループごとに上限4単位まで。	8単位以上
選択（1）【生命系】	
選択（2）【文・社会・心理系】	
選択（3）【法・政策系】	
選択（4）【経済系】	
合 計	計20単位以上

2020年度 サイエンスコミュニケーター養成副専攻認定科目一覧表

年度ごとに認定科目は追加・削除される可能性があります。最新の情報はホームページで確認してください。

<履修可否について>

※1 副専攻履修許可者のみ登録履修が認められる科目。

履修体系	配当年次	科目コード	クラスコード	科目名	クラス	単位数	履修可否	卒業必要単位としての算入取り扱い		
								医工	医情報	医生命システム
サイエンスリテラシー科目群										
サイエンスリテラシー	2~	11433502	001	科学技術概論Ⅰ－科学技術社会論－	1	2	※1	自由科目	A群Ⅱ類-2	A群Ⅱ類
	2~	11433503	001	科学技術概論Ⅱ－調査方法論/統計学－	1	2	※1	自由科目	A群Ⅱ類-2	A群Ⅱ類
	2~	11433504	001	アウトリーチ実習－科学技術表現実習－	1	2	※1	自由科目	A群Ⅱ類-2	A群Ⅱ類
	2~	11433505	001	サイエンスライティング	1	2	※1	自由科目	A群Ⅱ類-2	A群Ⅱ類
	2~	11433517	001	サイエンスとインテリジェンス－体系知(科学)と宗教－【隔週授業】	1	2	※1	自由科目	A群Ⅱ類-2	A群Ⅱ類
	2~	11433519	001	サイエンスとインテリジェンス－集中読解と議論－	1	2	※1	自由科目	A群Ⅱ類-2	A群Ⅱ類
	2~	11433506	001	サイエンス・ナウ1－生命科学－	1	2	※1	自由科目	A群Ⅱ類-2	A群Ⅱ類
	2~	11433507	001	サイエンス・ナウ2－生命医科学入門－	1	2	※1	自由科目	2016年度生以前：A群Ⅱ類-2 2020年度生以降：A群Ⅱ類-2 2017年度生～2019年度生：自由科目	2019年度生以前：自由科目 2020年度生以降：A群Ⅱ類-2
	2~	11433508	001	サイエンス・ナウ3－報道と広報の現場－	1	2	※1	自由科目	A群Ⅱ類-2	A群Ⅱ類
	2~	11433509	001	サイエンス・ナウ4－科学史、原子力、感染－	1	2	※1	自由科目	A群Ⅱ類-2	A群Ⅱ類
	2~	11433510	001	サイエンス・ナウ5－メディカルワークショップ・インターンシップⅡ 基礎講義－	1	2	※1	自由科目	A群Ⅱ類-2	A群Ⅱ類
	2~	11433514	001	サイエンス・ナウ6－生命科学と社会－	1	2	※1	自由科目	A群Ⅱ類-2	A群Ⅱ類
2~	11433518	001	サイエンス・ナウ7－組換え、食、エセ科学－	1	2	※1	自由科目	A群Ⅱ類-2	A群Ⅱ類	
インターンシップワークショップ	2~	11433511		インターンシップⅠ【2016年度生以前が履修可】		2	※1	自由科目	A群Ⅱ類-2	A群Ⅱ類
	2~	11433512		インターンシップⅡ【2016年度生以前が履修可】		2	※1	自由科目	A群Ⅱ類-2	A群Ⅱ類
	2~	11433515		ビジネスワークショップ【2017年度生以降が履修可】		2	※1	自由科目	A群Ⅱ類-2	A群Ⅱ類
	2~	11433516		メディカルワークショップ【2017年度生以降が履修可】		2	※1	自由科目	A群Ⅱ類-2	A群Ⅱ類
	2~	11433520		取材・インタビュー実践講座【隔週授業】		2	※1	自由科目	A群Ⅱ類-2	A群Ⅱ類
	2~	11433521		未知型探索ビジネスワークショップ【夏期集中および隔週授業】		2	※1	自由科目	A群Ⅱ類-2	A群Ⅱ類
コミュニケーター関連科目群										
選択(1) 生命系	2~	11433008	001	人体の構造と機能Ⅰ	1	2		必修科目	必修科目	必修科目
	2~	11433008	002	人体の構造と機能Ⅰ	2	2		必修科目	必修科目	必修科目
	1~	11433001	001	生命医科学概論	1	2		必修科目	必修科目	必修科目
	1~	11433001	002	生命医科学概論	2	2		必修科目	必修科目	必修科目
	1~	11433007		臨床医学概論		2		A群Ⅱ類-1	A群Ⅱ類-1	必修科目
	1~	11433005		公衆衛生学		2		A群Ⅱ類-1	A群Ⅱ類-1	必修科目
	1~	11439005		公衆衛生学【他学部生用】		2		(履修できない)	(履修できない)	(履修できない)
	1~	11433002	001	生物学	1	2		必修科目	必修科目	必修科目
	1~	11433002	002	生物学	2	2		必修科目	必修科目	必修科目
	2~	11422102		生物情報概論		2		(履修できない)	A群Ⅰ類-1a	A群Ⅱ類
	2~	11422015	001	生化学	1	2		必修科目	必修科目	必修科目
	2~	11422015	002	生化学	2	2		必修科目	必修科目	必修科目
	3~	11433108		アンチエイジング		2		A群Ⅱ類-2	A群Ⅱ類-1	A群Ⅰ類
	3~	11433109		機能性食品医学		2		A群Ⅱ類-2	(履修できない)	A群Ⅰ類

2020年度 サイエンスコミュニケーター養成副専攻認定科目一覧表

年度ごとに認定科目は追加・削除される可能性があります。最新の情報はホームページで確認してください。

<履修可否について>

※1 副専攻履修許可者のみ登録履修が認められる科目。

履修体系	配当 年次	科目 コード	クラス コード	科目名	クラス	単 位 数	履 修 可 否	卒業必要単位としての算入取り扱い					
								医工	医情報	医生命 システム			
コミュニケーター関連科目群													
選択(2)	文系	2~	10240081		科学哲学(1)		2		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類		
		2~	10240082		科学哲学(2)		2		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類		
		3~	10240107	001		哲学概論(1)		1	2	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	
				51									
		3~	10240108	001		哲学概論(2)		1	2	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	
				51									
3~	10240109	001		倫理学概論(1)		1	2	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類			
		51											
3~	10240110	001		倫理学概論(2)		1	2	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類			
		51											
選択(2)	社会系	2~	10912113		情報社会学		2		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類		
		2~	10912114		仕事の社会学		2		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類		
		2~	10912115		災害社会学		2		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類		
		1~	10922005		社会福祉入門		2		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類		
		1~	10922168		医療福祉論		2		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類		
		1~	10922171		障害者福祉論 I		2		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類		
		1~	10922172		障害者福祉論 II		2		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類		
		1~	10922175		児童福祉論 I		2		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類		
		1~	10922176		児童福祉論 II		2		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類		
		2~	10922187		精神保健福祉論		4		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類		
		2~	10932110		ジャーナリズム論 I		2		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類		
		2~	10932111		ジャーナリズム論 II		2		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類		
		2~	10932143		メディア心理学 I		2		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類		
		2~	10932144		メディア心理学 II		2		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類		
		2~	10932106		比較メディア論		2		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類		
		2~	10932147		マルチメディア論 【2016年度以前の修得単位のみ認定】		2		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類		
		2~	10932149		放送論		2		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類		
		2~	10952117		ジェンダーと教育 【2017年度生以前が履修可】		2		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類		
2~	10952120		ジェンダーと人間形成 【2018年度生以降が履修可】		2		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類				
選択(2)	心理系	2~	11700315		リスク心理学		2		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類		
		2~	11700201		生理心理学【2017年度生以前が履修可】		2		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類		
		2~	11700211		生理心理学(神経・生理心理学) 【2018年度生以降が履修可】		2		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類		
選択(3)	法系	1~	10307502	000	国際関係入門		2		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類		
		1~	10307503	000	日本政治入門		2		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類		
		1~	10307504	000	政治思想入門		2		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類		
		1~	10307121	001		法と社会		2	2	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	
				002									
		1~	10308021	002		民法概論		2		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	
		2~	10308061	001		知的財産法概論		2	2	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	
				002									
		選択(3)	政策系	2~	10701503		環境政策		2	※1	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類
				2~	10701510		ジェンダー政策		2	※1	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類
1~	10702038				社会調査入門		2	※1	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類		
2~	10702214				ジェンダーと福祉		2	※1	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類		
2~	10701506				科学技術政策		2	※1	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類		
3~	10702257				環境法		2	※1	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類		

2020年度 サイエンスコミュニケーター養成副専攻認定科目一覧表

年度ごとに認定科目は追加・削除される可能性があります。最新の情報はホームページで確認してください。

<履修可否について>

※1 副専攻履修許可者のみ登録履修が認められる科目。

履修体系	配当年次	科目コード	クラスコード	科目名	クラス	単位数	履修可否	卒業必要単位としての算入取り扱い			
								医工	医情報	医生命システム	
コミュニケーター関連科目群											
選択(4)	経済系	1～	10403001	001	経済理論入門	1	2		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類
				002		2					
				003		3					
		1～	10403002	001	日本経済入門	1	2		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類
				002		2					
				003		3					
		1～	10403003	001	経済学の歴史	1	2		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類
				002		2					
				003		3					
		1～	10403004	501	IT基礎論 1	501	2		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類
				502		502					
		1～	10403051	001	初級ミクロ経済学 I	1	2		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類
				002		2					
				003		3					
		2～	10407051	001	初級ミクロ経済学	1	4		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類
				002		2					
		1～	10403053	001	初級マクロ経済学 I	1	2		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類
				002		2					
				003		3					
		2～	10407052	001	初級マクロ経済学	1	4		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類
002	2										
003	3										
004	4										
1～	10403057	001	統計 I	1	2		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類		
		002		2							
2～	10407054	001	統計	1	4		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類		
		002		2							
		003		3							
		004		4							
1～	10403059	001	経済史	1	2		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類		
		002		2							
		003		3							
2～	10407055	004		4							
2～	10407056	001	環境と資源	1	4		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類		
		002		2							
		003		3							
		004		4							
1～	10403061	501	IT基礎論 2	501	2		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類		
2～	10407057	502		502							
1～	10403802	-	科学と技術	-	2		B群Ⅲ類	B群Ⅲ類	B群Ⅲ類		

05 各種手続・その他注意事項について

ここでは、学籍・学費・学業履修に関する手続、規定事項などについて記載します。年度ごとに発生する変更等については、大学ホームページおよび生命医科学部ホームページを通じてお知らせします。

■授業時間・試験時間

授業時間、試験時間については以下のとおりです。ただし、学年暦で定める各学期期末試験期間中以外に実施される試験の実施時間については各科目担当教員の指示に従って受験してください。

授業時間

1 講時	9 : 00～10 : 30
2 講時	10 : 45～12 : 15
3 講時	13 : 10～14 : 40
4 講時	14 : 55～16 : 25
5 講時	16 : 40～18 : 10
6 講時	18 : 25～19 : 55
7 講時	20 : 10～21 : 40

試験時間

1 講時	9 : 20～10 : 30
2 講時	11 : 00～12 : 10
3 講時	13 : 25～14 : 35
4 講時	15 : 05～16 : 15
5 講時	16 : 45～17 : 55
6 講時	18 : 25～19 : 35
7 講時	20 : 05～21 : 15

■警報時の取扱い

交通機関が不通の場合および暴風警報、特別警報が発表された場合、授業ならびに試験について休講の処置をとる場合があります。※大雨警報は対象外です。

詳細については 63 頁を参照してください。なお、警報等当日の対応については本学ホームページ上で周知する場合がありますので当日は必ず確認をするようにしてください。なお、休講処置をとった場合の補講については各科目担当教員の指示に従ってください。

■身上変更について

在学期間中に住所（本人、父母等両方を含む）、姓名、保証人に変更が生じた場合、至急以下のとおり変更手続を行ってください。

変更事由	手続方法
本人の現住所・電話番号の変更	学修支援システム DUET 上「住所変更」にて修正
父母等住所・電話番号の変更	京田辺キャンパス教務センターに「住所変更届」を提出
姓名の変更	京田辺キャンパス教務センターに戸籍抄本とともに「改姓（名）届」を提出
保証人の変更	京田辺キャンパス教務センターに「保証人変更届」を提出

■在学年限および休学可能期間について

在学年限とは、本学に在学できる最大の期間を指し、下表のとおり、この年限を超えて在学することはできません。

なお、休学した期間（退学および除籍を含む）は在学期間に算入しません。また、休学できる期間は下表のとおり定められています。

課 程	在学年限	休学可能期間（通算）
学 部	8 年	4 年

■休学・退学について

疾病その他やむを得ない事由により休学、退学を希望する場合、定められた期間までに京田辺キャンパス教務センターに「休学願」、「退学願」（各願の様式は京田辺キャンパス教務センターにて配付）を提出する必要があります。各願の提出後、生命医科学部教授会の議を経て正式に休学、退学が承認されます。休学期間は1年または半年とし、春学期時に休学を申請する場合のみ1年間の休学を申請することができます。申請にあたり不明な点がある場合は必ず余裕をもって事前に京田辺キャンパス教務センターまで問い合わせてください。

願の種類	提 出 締 切
休学願	各学期の講義開始日まで
退学願	各学期終了日まで

■卒業見込について

4年次春学期の科目登録期間において、卒業に必要となる科目をすべて登録することで「卒業見込」の状態となり、大学院入試、就職活動などで必要となる「卒業見込証明書」が発行できるようになります。

春学期時に卒業見込証明書が必要な場合は必ず春学期登録期間に「卒業見込」状態となるよう1年間の科目登録を行ってください。

■学費について

学費については、大学から郵送する振込依頼書を使用し、指定の期日までに納入を行ってください。延納・分納を希望する場合は所定の期間内に申請手続を行ってください。

各学期の学費納付書の送付予定は次のとおりです。

■春学期用（年額用を含む）：4月中旬

■秋学期用：10月中旬

休学申請を行った場合、別途休学在籍料納入用の振込依頼書を後日送付しますので、上記期間に送付される通常の振込依頼書は使用しないでください。

■各種証明書について

就職活動や留学などで各種証明書が必要となる場合、京田辺キャンパス教務センターに設置されている証明書発行機より出力することができます。発行可能な証明書は次頁の表のとおりです。また、発行可能時間は時期により異なりますので注意してください。

証明書の種類	発行について
在学証明書、成績証明書(※)、卒業見込証明書(※)、 教育職員免許状単位習得見込証明書	和文：1通 100円
	英文：1通 300円
健康診断証明書(※) (4年次生以上のみ。3年次生以下は保健センターに て申請すること)	春学期登録期間中に実施される定期健康診断を受 診していることが必要
学割証(※)	年度内10枚が上限。就職活動などで10枚以上必要 となる場合は教務センターに相談すること

(※) がついた証明書については大阪サテライト・キャンパス、東京サテライト・キャンパスで発行可能です。

■学生への連絡について

科目登録や授業に関する連絡について、学部掲示板（知真館2号館2階、医心館グランドフロア）、大学から交付したメールアドレス、学修支援システム DUET を通じて連絡することがあります。大切な連絡を見落とすことのないよう、登校時には掲示板を確認してください。また、DUET や大学から交付したメールアドレスに送付されるメッセージを携帯電話やスマートフォンなどに転送するよう設定しておいてください。

■各種窓口について

学生生活上、不明な点が生じた場合は各事務室窓口まで問い合わせてください。以下に一例を示しますので参考にしてください。

相談内容	取扱窓口
科目履修、休学・退学、証明書、 成績に関すること	京田辺キャンパス教務センター
留学に関すること	国際センター国際課（京田辺）
学費延納・分納について、奨学金に関すること	京田辺校地学生生活課

■欠席届について

同志社大学において公欠制度はありません。病気や課外活動などで授業を欠席する場合に休んだ事由を証明できるもの（医師の診断書、大会の実施要領などのコピー）とともに、京田辺キャンパス教務センターにある欠席届に欠席した事由を記入の上、欠席した授業科目の担当者に手渡してください。

※教職免許取得のための各種実習に係る欠席届については別途免許資格課程センターの指示を受けてください。

■休講・補講について

休講情報については学修支援システム DUET から確認できます。授業実施当日に急遽休講となる場合もありますので定期的に確認してください。

授業休講に伴う補講については各科目担当者の指示に従い受講してください。

06 各学科カリキュラムについて

医工学科 P 19

医情報学科 P 24

医生命システム学科 P 30

■教育研究の目的

機械工学と医学の融合領域におけるヒトのための先端工学技術の理解と習得を目的とする。

具体的には、ヒトの動作補助を行う医用ロボット、医療・福祉機器、再生組織材料、信頼性のある生体・環境適合材料などの学問分野への理解を深めると同時にこれらの応用技術についても学ぶ。本学科で取得できる学位は、学士（工学）である。

■人材養成の指針

医工学科は、ヒトを生体システムとして捉え、機械工学と医学の融合領域において、再生医療、バイオメカニクス、バイオマテリアル、及びバイオリボティクスの分野について、講義と実験実習をとおして、問題設定能力と問題解決能力を身に付けて、民間企業や官民の研究機関、教育機関等において活躍する人材を養成することを目的とする。

■ディプロマポリシー

学力の三要素/領域：下記の資質・能力を備えた学生に学士（工学）の学位を授与します。

【知識・技能】

- ・人が豊かに暮らせる社会の実現のために解決すべき課題を、機械工学と医学を融合した知見から理解し、習得した知識と技術により解決できる。

【思考力・判断力・表現力】

- ・人が豊かに暮らせる社会の実現のために解決すべき課題を積極的に発見し、機械工学と医学を融合した知識と技術を適切に運用することによって、解決する方法を見出すことができる。

【主体性・多様性・協働性】

- ・人が豊かに暮らせる社会の実現に向け、グローバル社会に生きる人々の価値観や文化の多様性を尊重し、機械工学と医学を融合した知識と技術により、社会に貢献できる。

■カリキュラムポリシー

1) カリキュラム総説

ディプロマポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設けます。

【編成・運営方針】

- ・工学と医学の融合領域である医工学の知識と技術を身につけ、人が豊かに暮らせる社会の実現に貢献できる人物を育成するために、必修科目および選択科目A群、B群、C群および自由科目によって構成されるカリキュラムを設置する。
- ・選択科目A群にはI-1類、I-2類、II-1類、II-2類、B群にはI～III類を設置する。
- ・選択科目C群は、教職に必要な免許関連科目を習得することを到達目標とする。
- ・選択科目A～C群から74単位以上を履修する。

2) 学力の三要素/領域

【知識・技能】

- ・必修科目は、高校で学習した知識をもとに、工学と医学の基礎的な知識・技能とその応用を身につける科目と、技術者として広く活躍できるように身につけるべき知識・態度を養う科目からなり、1年次から3年次にかけて講義ならびに実験・実習科目50単位と4年次に卒業論文4単位を履修する。

- ・選択科目A群Ⅰ-1類は、高大連携科目に続き、工学分野における基礎専門知識、基礎技能を習得することを到達目標とし、1年次から4年次にかけて12単位以上履修する。
- ・選択科目A群Ⅰ-2類は、医工学の各分野における専門知識、技能を習得することを到達目標とし、2年次から4年次にかけて14単位以上履修する。
- ・選択科目B群は、1年次以降20単位以上を選択履修する。そのうち、Ⅰ類から、英語の実践的な運用能力を習得することを到達目標とし、1年次以降、少人数クラスの英語演習科目8単位以上を、Ⅱ類から、フランス語もしくはドイツ語の基礎的運用能力を習得することを到達目標とし、1年次以降、少人数クラスの初修フランス語もしくはドイツ語演習科目4単位以上を履修する。

【思考力・判断力・表現力】

- ・選択科目A群Ⅱ-1類は、生命医学の分野における知識を習得し、人が豊かに暮らせる社会の実現のために解決すべき課題を積極的に発見することができるようになることを到達目標とし、1年次から4年次にかけて8単位以上履修する。なお、ここには、海外での企業体験が可能な科目も選択可能である。
- ・選択科目A群Ⅱ-2類は、医学・生命科学の各分野における知識を習得し、工学と医学を融合した知識と技術を適切に運用することによって解決する方法を見出すことができるようになることを到達目標とし、3年次から4年次にかけてA群Ⅱ-1類と合わせて16単位以上履修する。

【主体性・多様性・協働性】

- ・必修科目における卒業論文では、これまでに獲得した知識と技術を基盤として、課題を主体的に解決する能力を身につけることを到達目標とし、卒業研究に取り組み、研究成果のプレゼンテーションを行う。
- ・選択科目B群Ⅲ類から、幅広いリベラルアーツや建学の精神などを習得することを到達目標とし、1年次以降8単位以上を履修する。
- ・選択科目C群は、教職に必要な免許関連科目を習得することを到達目標とする。

■カリキュラムの特徴

【必修科目】

微分積分学、代数学、材料力学、材料工学、制御工学など工学系の科目と、医学概論、生化学、生理学など医学系の科目をバランス良く配置し、さらに医学と工学の関係や工学技術の医学への応用などを教授する医工学概論、医工学の基礎を幅広く学ぶ医工学基礎実験などを必修科目として設置している。

【選択科目A群】

医工学に関連する多数の応用科目群を配置し、基礎科目群の履修で涵養された基礎力をベースとして、学生が指向するさまざまな医工学分野への将来展開へ向けた準備を行う。なお、A群には他学科の科目も多数設置し、生命医科学全般の専門知識も深めることが可能である。

【選択科目B群】

英語8単位、ドイツ語又はフランス語4単位に加え、全学共通教養教育科目、他学部設置科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目、同志社女子大学単位互換科目を設置している。

【選択科目C群】

卒業要件単位としても算入可能な教職免許関係の科目を配置している。

医工学科

卒業要件	必修科目	選 択 科 目							合計	
		A群				B群				C群
		I類		II類		I類	II類	III類		
		AI-1	AI-2	AII-1	AII-2					
		12	14	8		8	4	8	128	
	54	26		16						
		42				20				
		74								

【設置科目】

必修科目	単位
微分積分学Ⅰ	2
微分積分学Ⅱ	2
代数学Ⅰ	2
代数学Ⅱ	2
化学	2
生物学	2
物理学基礎	2
力学	2
生命医科学概論	2
製図学基礎	2
コンピュータプログラミング	2
医工・医情報学概論	2
材料力学Ⅰ	2
物理学Ⅰ	2
人体の構造と機能Ⅰ	2
材料力学Ⅱ	2
応用数理Ⅰ	2
医工学基礎実験	2
医用設計工学実習Ⅰ	2
材料工学Ⅰ	2
生化学	2
制御工学Ⅰ	2
制御工学Ⅱ	2
医工学応用実験	2
医用設計工学実習Ⅱ	2
卒業論文Ⅰ	2
卒業論文Ⅱ	2

選 択 科 目	単位
選択科目A群Ⅰ類-1	
数学基礎	2
応用数理Ⅱ	2
物理学Ⅱ	2
コンピュータ演習	2
電気回路・電子回路	2
電磁気学	2
計測工学	2
医用機械設計法	2
基礎数理統計学	2
応用数理統計学	2
材料工学Ⅱ	2
熱力学	2

選 択 科 目	単位
選択科目A群Ⅰ類-2	
材料力学演習Ⅰ	2
材料力学演習Ⅱ	2
流体力学	2
バイオマテリアル	2
バイオメカニクス	2
医用ロボット	2
メカトロニクス	2
BioMEMS	2
再生医科学	2
外科学概論(病態生理学)	2
臨床解剖学概論	2

選 択 科 目	単位
選択科目A群Ⅱ類-1	
スポーツ運動学	2
公衆衛生学	2
ケア倫理学	2
スポーツ・バイオメカニクス	2
リハビリテーション医学	2
人体の構造と機能Ⅱ	2
臨床医学概論	2
内科学概論	2
特別講義	2

選 択 科 目	単位
選択科目A群Ⅱ類-2	
放射線科学	2
超音波エレクトロニクス	2
医用情報処理	2
医用画像工学	2
生物情報	2
バイオインフォマティクス	2
アンチエイジング	2
機能的食品医学	2
神経科学	2
脳神経機構学	2
ストレス適応科学	2
バイオマーカー解析学	2
解析力学	2
統計力学	2
複素解析	2

選 択 科 目	単位
選択科目B群Ⅰ類	
全学共通教養教育科目	
外国語教育科目(英語)	

選 択 科 目	単位
選択科目B群Ⅱ類	
全学共通教養教育科目	
外国語教育科目(ドイツ語またはフランス語)	

選 択 科 目	単位
選択科目B群Ⅲ類	
全学共通教養教育科目	
同志社科目	
キャリア形成支援科目	
国際教養科目	
クリエイティブ・ジャパン科目	
人文科学系科目	
社会科学系科目	
自然・人間科学系科目	
プロジェクト科目	
複合領域科目	
外国語教育科目	
保健体育科目	
他学部設置科目	
同志社女子大単位互換科目	
大学コンソーシアム単位互換科目	
テュービンゲン大学 IES 科目	

選 択 科 目	単位
選択科目C群	
計算機代数	2
幾何学Ⅰ	2
幾何学Ⅱ	2
応用微分方程式	2
代数学Ⅲ	2
応用代数学	2
ベクトル解析	2
集合と位相	2
応用幾何学	2

自 由 科 目	単位
地学概論Ⅰ	2
地学概論Ⅱ	2
地学実験	1
化学実験	3
教科教育法A1(数学)	2
教科教育法A2(数学)	2
教科教育法B(数学)	2
教科教育法C(数学)	2
教科教育法A1(理科)	2
教科教育法A2(理科)	2
教科教育法B(理科)	2
教科教育法C(理科)	2
教職実践演習(中・高)	2
教育実習指導	1
教育実習A	2
教育実習B	2
教育実習C	4
医生命基礎実験	2
学校図書館サービス論	2
ニューロサイエンス入門1	2
ニューロサイエンス入門2	2
科学技術概論Ⅰ	2
科学技術概論Ⅱ	2
アウトリーチ実習	2
サイエンスライティング	2
サイエンスとインテリジェンス	2
サイエンス・ナウ1	2
サイエンス・ナウ2	2
サイエンス・ナウ3	2
サイエンス・ナウ4	2
サイエンス・ナウ5	2
サイエンス・ナウ6	2
サイエンス・ナウ7	2
ビジネスワークショップ	2
メディカルワークショップ	2
取材・インタビュー実践講座	2
未知型探索ビジネスワークショップ	2
特別ニーズ教育論	2
スクールインターンシップ	2
特別講義アドバンス	2

■医工学科での履修上の注意

1. 卒業・進級要件および卒業論文Ⅰ、Ⅱの履修について

【卒業要件】

必修科目 54 単位、選択科目 74 単位以上、合計 128 単位以上履修すること。選択科目については、A群全体から 42 単位以上（A群Ⅰ類から 26 単位（A群Ⅰ類-1 から 12 単位、Ⅰ類-2 から 14 単位を含む）、A群Ⅱ類から 16 単位以上（A群Ⅱ類-1 から 8 単位を含む））、B群およびC群から 20 単位以上（B群Ⅰ類から 8 単位、B群Ⅱ類から 4 単位、B群Ⅲ類から 8 単位を含む）を履修すること。

【進級要件】

卒業論文の指導は、次の①、②の要件をとともに満たしている者に対して行います。4年次に卒業論文を登録する予定の方は、春学期の登録時点で進級要件を満たすよう科目登録してください。

① 3年以上上級し（休学期間は含まない）、前頁卒業必要単位のうち 102 単位以上を修得した者。

② 第3年次までの必修科目および選択科目A群Ⅰ類-1 を合わせて 56 単位以上を修得した者。

（ただし、ここで算入できるA群Ⅰ類-1 の単位数は 12 単位までとします）

※休学をした場合、休学期間が半年であっても、半年延長の9月卒業（4.5年での卒業）はカリキュラム上不可となるので注意すること。卒業論文Ⅰは春学期、卒業論文Ⅱは秋学期にしか開講されません。

【卒業論文Ⅰ、Ⅱ 履修上の注意】

卒業論文Ⅰ・Ⅱは、研究室配属で決定している教員のクラスを履修すること。

2. B群Ⅰ類（外国語教育科目 英語）の履修について

<英語> B群Ⅰ類（英語）の8単位には、以下①～④を必ず含んでいなければなりません。

① コミュニカティブ・イングリッシュ1・2

② アナリティカル・リーディング1・2

③ イングリッシュ・セミナー1・2（またはイングリッシュ・セミナー3）

④ イングリッシュ・ワークショップ1・2（またはイングリッシュ・ワークショップ3）

※入学前および在学中に TOEIC®Listening & Reading Test、TOEFL iBT®テストなどにより一定の水準以上の成果を修めた場合に、申請によりB群Ⅰ類の単位として認定します（詳細は『登録要領』を参照してください）。

ただし、上記①～④の科目の完修が必要です。

3. B群Ⅱ類（外国語教育科目 ドイツ語またはフランス語）の履修について

B群Ⅱ類の4単位には、選択した語部に応じて以下の各科目を必ず含んでいなければなりません。

<ドイツ語> ドイツ語入門Ⅰ・Ⅱまたはドイツ語インテンシヴⅠ・Ⅱ

<フランス語> フランス語入門Ⅰ・Ⅱまたはフランス語インテンシヴⅠ・Ⅱ

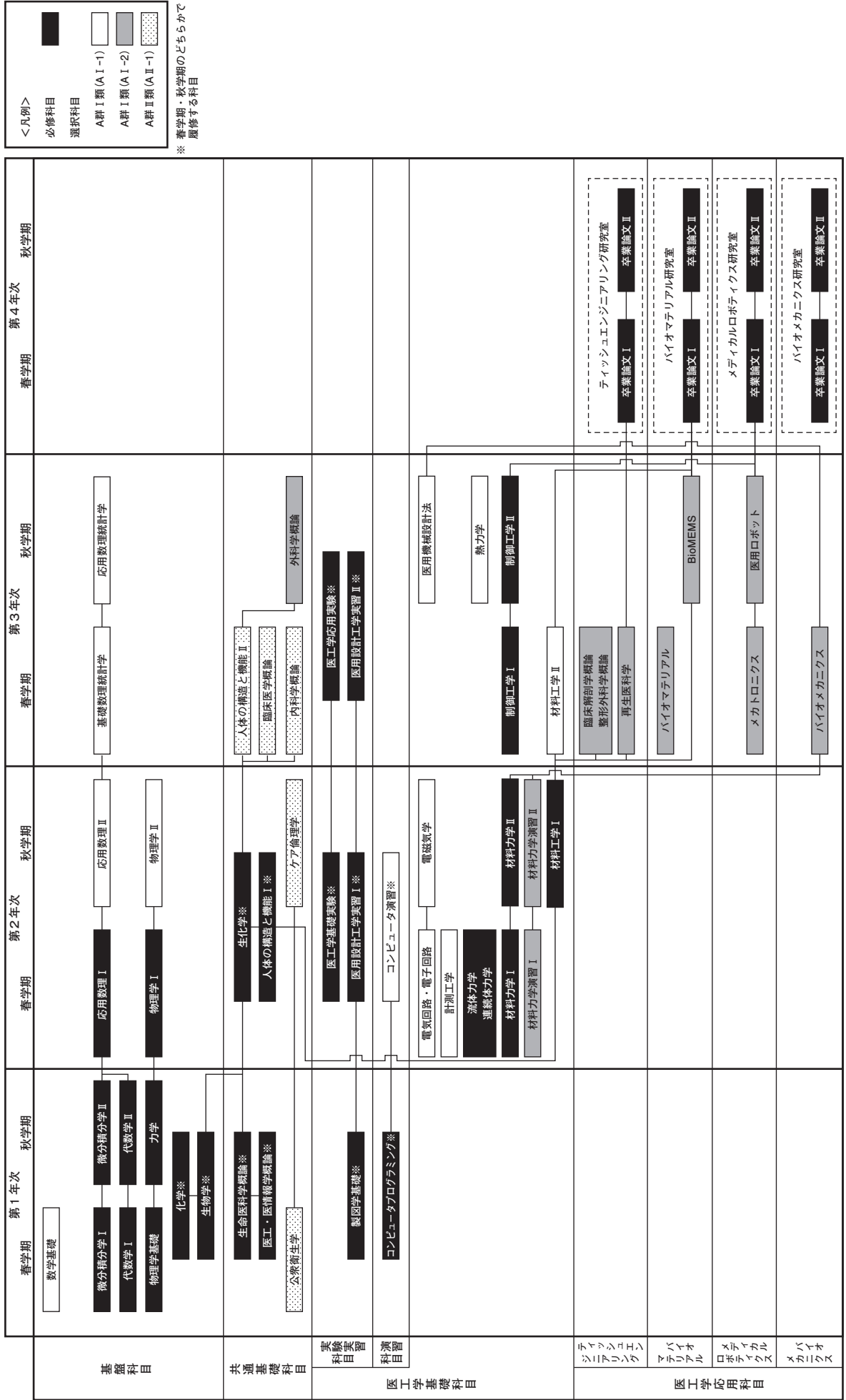
※帰国生等、既に一定の語学能力を有していると認められる者については、この限りではない。卒業要件の詳細については教務センター（生命医科学部）窓口で確認すること。

※外国人留学生在が日本語・日本文化教育科目の「日本語1（読解AⅥ）～1（文法Ⅸ）」、「日本語2（読解AⅥ）～2（文法Ⅸ）」、「ビジネス日本語C、D」の科目を登録履修した場合はB群Ⅱ類に算入し、4単位以上履修した場合はドイツ語またはフランス語入門Ⅰ・Ⅱを履修したものとみなします。

4. B群Ⅲ類（外国語教育科目 英・独・仏以外）の履修について

外国語教育科目のうち、英語、ドイツ語、フランス語以外の外国語科目を登録履修した場合は、B群Ⅲ類に算入されます。

医工学科カリキュラム系統図



<凡例>

- 必修科目
- 選択科目
- A群Ⅰ類(AⅠ-1)
- A群Ⅰ類(AⅠ-2)
- A群Ⅱ類(AⅡ-1)

※ 春学期・秋学期のどちらかで履修する科目

医情報学科

Department of Biomedical Sciences and Informatics

■教育研究の目的

情報やエレクトロニクスの工学技術と医学の融合領域における先端技術の理解と習得を目的とする。具体的には、ヒトの脳内における情報処理メカニズムの解明や高度な生体情報計測技術を学び、さらに、生体システム機能の医用機器への応用や生体情報を用いた様々な医用機器などへの理解を深める。本学科で取得できる学位は、学士（工学）である。

■人材養成の指針

医情報学科は、生体情報の取得・制御に関する知識や技能と、生体情報処理機構を次世代高度情報システムの構築へと展開できる応用力について、幅広いレベルアーツと自然科学基礎、電子・情報工学、生体情報、脳科学に関する講義や演習、実験、卒業研究をとおして、自発的に問題発見・解決を行い、それを伝えることのできる創造力を身に付けて、企業や研究所等において活躍する人材を養成することを目的とする。

■ディプロマポリシー

学力の三要素/領域：下記の資質・能力を備えた学生に学士（工学）の学位を授与します

【知識・技能】

- ・生体情報の取得・制御と、生体情報処理機構の情報システム構築への展開に関する知識を理解できる。
- ・ヒトを主体とする情報利用に関する技術を身につけて応用することができる。

【思考力・判断力・表現力】

- ・人が豊かに暮らせる社会の実現のために解決すべき課題に対して、情報理工学と生命医科学を融合した知識と技術による解決方法を見出し、その課題や解決方法を伝えることができる。

【主体性・多様性・協働性】

- ・社会に貢献するため、医学・工学分野の情報利用に対する課題を見つけ、その解決に向けて自発的に行動できる。

■カリキュラムポリシー

1) カリキュラム総説

ディプロマポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設けます

【編成・運営方針】

- ・生体情報の取得・制御と、生体情報処理機構の情報システム構築への展開に関する諸問題の解決に貢献できる人物を育成するために、必修科目及び選択科目A～C群によって構成されるカリキュラムを設置する。
- ・必修科目は、講義ならびに実験・演習科目 50 単位と 4 年次に卒業論文 4 単位を履修する。選択科目 A 群は、Ⅰ類とⅡ類を設置し、Ⅰ類には 1a と 1b、および 2、Ⅱ類には 1 と 2 を設置する。
- ・選択科目 B 群は、Ⅰ類、Ⅱ類とⅢ類を設置する。
- ・選択科目 C 群は、教職に必要な免許関連科目等を設置する。

2) 学力の三要素/領域

【知識・技能】

- ・必修科目の講義科目では、生体情報の取得・制御と、生体情報処理機構の情報システム構築への展開に関する基礎的知識を習得する。
- ・必修科目の実験・演習科目では、生体情報の取得・制御と、生体情報処理機構の情報システム構築への展開に関する基礎的知識や技能を習得する。
- ・選択科目A群は、生体情報の取得・制御と、生体情報処理機構の情報システム構築への展開に関する専門的知識や技能を習得する。なお、I-1aと1bは基幹科目であり、選択必修である。また、I-2は自学科設置科目、II-1は主に他学科主設置科目、II-2は他学部主設置科目となっており、学生が求められた単位数に従い自主的に選択する。
- ・選択科目B群では、I類で英語の実践的な運用能力を習得し(8単位以上)、II類でフランス語もしくはドイツ語の基礎的運用能力を習得する(4単位以上)。また、III類では、幅広いリベラルアーツや建学の精神などを習得する(8単位以上)。

【思考力・判断力・表現力】

- ・必修科目の実験科目では、実験の遂行後にレポートの作成・提出が、かつ発表会での発表が求められる。
- ・必修科目の卒業論文では、与えられたテーマに対し、報告会での経過発表を行うとともに、卒業論文の提出と卒論発表会での発表が要求される。

【主体性・多様性・協働性】

- ・必修科目の実験・演習科目ではグループワークを行い、与えられたテーマを遂行する。また、発表会ではグループによる発表が求められる。
- ・必修科目の卒業論文では、研究室に属して、与えられた問題を自発的に行動して解決方法を見出す。

■カリキュラムの特徴

【必修科目】

電気回路、電子回路、基礎電子情報演習などのエレクトロニクス関連の工学科目と、プログラミング、知覚システム論、情報処理工学などの情報工学系の科目ならびに医学概論、生化学、生理学など医学系の科目をバランス良く配置しており、さらに、医学と工学の相互関連を学ぶ医工学概論、基礎医学とエレクトロニクスや情報工学技術の基礎を総合的に体験する物理科学実験を必修科目として設置している。

【選択科目A群】

医情報に関連する多数の応用科目群を配置し、基礎科目群の履修で涵養された基礎力をベースとして、学生が指向するさまざまな医情報分野への将来展開へ向けた準備を行う。なお、A群II類には他学科の科目も多数設置し生命医科学全般の専門知識を深めることが可能である。

【選択科目B群】

英語8単位、ドイツ語又はフランス語4単位に加え、全学共通教養教育科目、他学部設置科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目、同志社女子大学単位互換科目を設置している。

【選択科目C群】

卒業要件単位としても算入可能な教職免許関係の科目を配置している。

医情報学科

卒業要件	必修科目	選択科目							合計	
		A群					B群			C群
		I類			II類		I類	II類		
		AI-1a	AI-1b	AI-2	AII-1	AII-2				
12	2		8		8	4	8	128		
54	26					20				
	42					74				

【設置科目】

必修科目	単位
微分積分学Ⅰ	2
微分積分学Ⅱ	2
線形代数学Ⅰ	2
生物学	2
物理科学実験Ⅰ	2
物理学基礎	2
生命医科学概論	2
医工・医情報学概論	2
化学	2
知覚情報システム論	2
エレクトロニクスⅠ	4
物理科学実験Ⅱ	2
エレクトロニクスⅡ	4
情報処理工学	2
物理学Ⅰ	2
医情報応用実験Ⅰ	2
医情報応用実験Ⅱ	2
生化学	2
フーリエ・ラプラス解析	2
プログラミングⅠ	4
人体の構造と機能Ⅰ	2
医情報応用実験Ⅲ	2
卒業論文Ⅰ	2
卒業論文Ⅱ	2

選択科目	単位
選択科目A群Ⅰ類-1a	
医用機器概論	2
生物情報概論	2
複素解析	2
デジタル信号処理	2
知覚認知	2
電子計測	2
プログラミングⅡ	2
基礎数理統計学	2
システム工学	2
構造有機化学	2

選択科目A群Ⅰ類-1b	単位
医情報応用実験Ⅳ	2
特別演習実習A	2
特別演習実習B	4

選択科目A群Ⅰ類-2	単位
線形代数学Ⅱ	2
電磁気学	2
電子回路	2
物理学Ⅱ	2
応用微分方程式	2
放射線科学	2
医用情報処理	2
特別講義A	2
特別講義B	2
生物情報	2
バイオインフォマティクス	2
応用数理統計学	2
超音波エレクトロニクス	2
プロジェクト実習	2
医用画像工学	2
分析化学	2
量子力学	2

選択科目	単位
選択科目A群Ⅱ類-1	
公衆衛生学	2
スポーツ運動学	2
ケア倫理学	2
スポーツ・バイオメカニクス	2
人体の構造と機能Ⅱ	2
システム生物学	2
臨床医学概論	2
内科学概論	2
外科学概論（病態生理学）	2
再生医学	2
アンチエイジング	2
薬理学	2
神経科学	2
リハビリテーション医学	2
臨床解剖学概論	2
神経情報伝達制御学	2
遺伝情報医学（病態生理学）	2
脳神経機構学	2
特別講義	2
ニューロサイエンス入門1	2
ニューロサイエンス入門2	2
ヒトの知的機能と遺伝要因	2

選択科目A群Ⅱ類-2	単位
アナログ電子回路	2
画像処理	2
バイオメカニクス	2
メカトロニクス	2
データベースシステム	2
視覚機構	2
パターン認識	2
バイオマテリアル	2
BioMEMS	2
医用ロボット	2
コンピュータグラフィックス	2
科学技術概論Ⅰ	2
科学技術概論Ⅱ	2
アウトリーチ実習	2
サイエンスライティング	2
サイエンスとインテリジェンス	2
サイエンス・ナウ1	2
サイエンス・ナウ2（2020年度生以降）	2
サイエンス・ナウ3	2
サイエンス・ナウ4	2
サイエンス・ナウ5	2
サイエンス・ナウ6	2
サイエンス・ナウ7	2
ビジネスワークショップ	2
メディカルワークショップ	2
取材・インタビュー実践講座	2
未知型探索ビジネスワークショップ	2

選択科目B群Ⅰ類	単位
全学共通教養教育科目	
外国語教育科目（英語）	

選択科目B群Ⅱ類	単位
全学共通教養教育科目	
外国語教育科目（ドイツ語またはフランス語）	

選択科目	単位
選択科目B群Ⅲ類	
全学共通教養教育科目	
同志社科目	
キャリア形成支援科目	
国際教養科目	
クリエイティブ・ジャパン科目	
人文科学系科目	
社会科学系科目	
自然・人間科学系科目	
プロジェクト科目	
複合領域科目	
外国語教育科目	
保健体育科目	
他学部設置科目	
同志社女子大単位互換科目	
大学コンソーシアム単位互換科目	
テュービンゲン大学IES科目	

選択科目C群	単位
計算機代数	2
幾何学Ⅰ	2
幾何学Ⅱ	2
代数学Ⅲ	2
応用代数学	2
ベクトル解析	2
集合と位相	2
応用幾何学	2

自由科目	単位
教科教育法A1（数学）	2
教科教育法A2（数学）	2
教科教育法B（数学）	2
教科教育法C（数学）	2
教科教育法A1（理科）	2
教科教育法A2（理科）	2
教科教育法B（理科）	2
教科教育法C（理科）	2
教職実践演習（中・高）	2
教育実習指導	1
教育実習A	2
教育実習B	2
教育実習C	4
製図学基礎	2
地学概論Ⅰ	2
地学概論Ⅱ	2
地学実験	1
化学実験	3
学校図書館サービス論	2
医療情報学	2
医療システム機器	2
生物センシング工学	2
生物物理学	2
自己組織化の科学	2
医用画像システム	2
有機合成	2
有機反応1	2
有機反応2	2
臨床医学開発	2
神経行動科学	2
応用化学	2
超音波医科学	2
Comm5.0: 生体情報アルゴリズム	2
バイオメディカルコンピューティング	2
生物音響工学	2
医情報リテラシー	1
特別ニーズ教育論	2
スクールインターナシップ	2
特別講義アドバンス	2
スポーツ医学の未来	2

■ 医情報学科での履修上の注意

1. 卒業・進級要件および卒業論文Ⅰ、Ⅱの履修について

【卒業要件】

必修科目54単位、選択科目74単位以上、合計128単位以上履修すること。選択科目については、A群全体から42単位以上（A群Ⅰ類から26単位（A群Ⅰ類-1aから12単位、Ⅰ類-1bから2単位を含む）、A群Ⅱ類-1から8単位を含む）、B群およびC群から20単位以上（B群Ⅰ類から8単位、B群Ⅱ類から4単位、B群Ⅲ類から8単位を含む）を履修すること。

【進級要件】

卒業論文の指導は、次の①、②の要件をともに満たしている者に対して行います。4年次に卒業論文を登録する予定の方は、春学期の登録時点で進級要件を満たすよう科目登録してください。

①3年以上修学し（休学期間は含まない）、前頁卒業必要単位のうち102単位以上を修得した者。

②第3年次までの必修科目および選択科目A群Ⅰ類-1aを合わせて56単位以上を修得した者。

（ただし、ここで算入できるA群Ⅰ類-1aの単位数は12単位までとします）

【卒業論文Ⅰ、Ⅱ 履修上の注意】

卒業論文Ⅰ・Ⅱは、研究室配属で決定している教員のクラスを履修すること。

【卒業論文Ⅰの秋学期開講、卒業論文Ⅱの春学期開講について】

- ・進級必要単位は修得しているが修業年数が不足している場合は、秋学期の卒業論文Ⅰ、次年度春学期の卒業論文Ⅱの履修を認めます。
- ・原則として、卒業論文Ⅱのみを残して卒業しない場合は、次年度春学期の卒業論文Ⅱの履修を認めます。

2. A群Ⅰ類-1b科目の履修について

A群Ⅰ類-1bは3科目のうち1科目を必ず履修する必要があります。

- ・医情報応用実験Ⅳ／医情報実験Ⅲ（2）は通常の実験科目
- ・特別演習実習／特別演習実習Aは飛び入学を行うにあたり履修が必要な科目
- ・特別演習実習Bは第4年次生の春に研究留学、もしくは語学留学を行うにあたり履修が必要な科目
特別演習実習／特別演習実習A／特別演習実習Bの履修に際しては条件があるので注意すること。
（詳細は『登録要領』を参照してください）

3. B群Ⅰ類（外国語教育科目 英語）の履修について

<英語>

B群Ⅰ類（英語）の8単位には、以下①～④を必ず含んでいなければなりません。

- ①コミュニケーション・イングリッシュ1・2
- ②アナリティカル・リーディング1・2
- ③イングリッシュ・セミナー1・2（またはイングリッシュ・セミナー3）
- ④イングリッシュ・ワークショップ1・2（またはイングリッシュ・ワークショップ3）

※入学前および在学中にTOEIC®Listening & Reading Test、TOEFL iBT®テストなどにより一定の水準以上の成果を修めた場合に、申請によりB群Ⅰ類の単位として認定します（詳細は『登録要領』を参照してください）。ただし、上記①～④の科目の完修が必要です。

4. B群Ⅱ類（外国語教育科目ドイツ語またはフランス語）の履修について

B群Ⅱ類の4単位には、選択した語部に応じて以下の各科目を必ず含んでいなければなりません。

<ドイツ語>

ドイツ語入門Ⅰ・Ⅱまたはドイツ語インテンシヴⅠ・Ⅱ

<フランス語>

フランス語入門Ⅰ・Ⅱまたはフランス語インテンシヴⅠ・Ⅱ

※帰国生等、既に一定の語学能力を有していると認められる者については、この限りではない。卒業要件の詳細については教務センター（生命医科学部）窓口で確認すること。

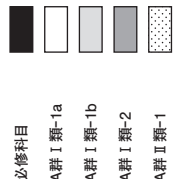
※外国人留学生が日本語・日本文化教育科目の「日本語1（読解AⅥ）～1（文法Ⅸ）」、「日本語2（読解AⅥ）～2（文法Ⅸ）」、「ビジネス日本語C、D」の科目を登録履修した場合はB群Ⅱ類に算入し、4単位以上履修した場合はドイツ語またはフランス語入門Ⅰ・Ⅱを履修したものとみなします。

5. B群Ⅲ類の履修について

- ・外国語教育科目のうち、英語、ドイツ語、フランス語以外の外国語科目を登録履修した場合は、B群Ⅲ類に算入されます。

医情報学教科カリキュラム系統図

	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
基礎科目	微分積分学Ⅰ 線形代数学Ⅰ 代数学Ⅰ 物理学基礎 化学※ 生物学※	微分積分学Ⅱ 線形代数学Ⅱ 代数学Ⅱ 物理学Ⅰ 物理学Ⅱ	基礎数理統計学 応用微分方程式 応用数理Ⅲ 応用数理統計学 量子力学	
共通基礎科目	医工・医情報学概論※ 生命医科学概論※ 医工・医情報学概論※ 公衆衛生学	生化学※ 人体の構造と機能Ⅰ※ 生化学※ 人体の構造と機能Ⅱ※ ケア倫理学	臨床医学概論 内科学概論 人体の構造と機能Ⅰ 外科学概論 (病態生理学) 外科学概論	
実験実習科目	物理科学実験Ⅰ 医情報実験Ⅰ(1)	医情報応用実験Ⅰ 医情報実験Ⅱ(1)	医情報応用実験Ⅲ 医情報実験Ⅲ(1) 特別演習実習A 特別演習実習B	
情報基礎科目	エレクトロニクスⅠ 知覚情報システム論	エレクトロニクスⅡ 電磁気学 電磁気現象 電子回路 生物情報概論 医用機器概論	プログラミングⅡ 特別講義A 特別講義B	
生体計測			電子計測 放射線科学 生体計測コース 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ	
脳神経科学		神経機能計測 (2014年度以前)	脳・神経科学応用 (2014年度以前) 知覚認知	脳神経科学コース 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ
情報処理工学		情報処理工学	医用画像処理 システム工学 医用画像工学	情報処理工学コース 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ
生体情報			構造有機化学 生物情報 生物情報Ⅰ 分析化学 バイオインフォマティクス 生物情報Ⅱ	生体情報コース 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ

<凡例>

 必修科目
 A群Ⅰ類-1a
 A群Ⅰ類-1b
 A群Ⅰ類-2
 A群Ⅱ類-1

※ 春学期・秋学期のどちらかで履修する科目

※上記履修科目については2012年度生以前知覚科目が一部非履修である。詳細は京田辺キャンパス教務センターまたはDUETにて確認のこと。

医生命システム学科

Department of Medical Life Systems

■教育研究の目的

生命現象理解の視点から、分子生物学、細胞生物学、解剖学、薬理学、内科学などの幅広い基礎医学の理解と習得を目的とする。また、人体の構造や機能、病気の原因についても学び、これらを通じて、ヒトの健康増進、病気の予防、治療等における医療技術に対する理解を深める。本学科で取得できる学位は、学士（理学）である。

■人材養成の指針

医生命システム学科は、ヒトをひとつの生命システムと捉え、それを維持する生理機構やその破綻による各種疾病の発症機構、さらにはその治療・予防について、生命科学、薬学、基礎医学、臨床医学に関する講義、ならびにこれらと密接に関連した実験実習をとおして、体系的な理解能力と実践的な問題解決能力を身に付けて、生命科学、基礎医学、健康科学の関連分野において活躍する人材を養成することを目的とする。

■ディプロマポリシー

学力の三要素/領域：下記の資質・能力を備えた学生に学士（理学）の学位を授与します

【知識・技能】

- ・生命現象や各種疾患とその治療・予防に関する知識を体系的に理解し、生命をシステムとして考えることができる。

【思考力・判断力・表現力】

- ・生命科学に関する体系的な知識を運用し、学術分野や社会における問題を自ら発見し、解決していく実践力を発揮できる。

【主体性・多様性・協働性】

- ・生命科学の知識と技術を医学分野へ適用し、身につけた問題解決能力を活かして社会に貢献できる。

■カリキュラムポリシー

1) カリキュラム総説

ディプロマポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設けます

【編成・運営方針】

- ・生命医科学全般に関する体系的な知識を、学術的・社会的問題解決のために運用し社会に貢献できる人物を育成するために、必修科目及び選択科目A・B群によって構成されるカリキュラムを設置する。選択科目A群にはⅠ類およびⅡ類を、選択科目B群にはⅠ類、Ⅱ類およびⅢ類を設置する。
- ・また獲得した知識を一般社会に簡明に伝えることができる能力を涵養するために、サイエンスコミュニケーター養成副専攻を設置する。サイエンスリテラシー科目群とコミュニケーター科目群を設置する。

2) 学力の三要素/領域

【知識・技能】

- ・必修科目では、生命現象や各種疾患の発症機構、その治療・予防に関する基本的知識ならびに実践的な技術を習得し、1年次から3年次にかけて講義ならびに実験科目 52 単位と4年次に卒業論文4単位を履修する。

- ・選択科目A群I類は、必修科目で修得した基礎知識のうえにさらに高度な専門知識を習得させる科目群、ならびに医学、生命科学の応用科目群を配置し、幅広い分野に通用する知識を習得することを到達目標とし、演習内容を含む講義20単位以上を1年次から4年次にかけて履修する。
- ・選択科目B群は、1年次以降20単位以上を選択履修する。そのうち、I類から、英語の実践的な運用能力を習得することを到達目標とし、1年次以降、少人数クラスの英語演習科目8単位以上を、II類から、フランス語もしくはドイツ語の基礎的運用能力を習得することを到達目標とし、1年次以降、少人数クラスの初修フランス語もしくはドイツ語演習科目4単位以上を履修する。

【思考力・判断力・表現力】

- ・必修科目における実験科目では、これまでの講義で得た知識が機能的に効率よく結びつかせ、主体的に思考・判断できる能力の獲得をめざす。
- ・選択科目A群II類は、生命科学と工学の融合分野において生命をより広い視点から理解する能力を習得するために、演習内容を含む講義を1年次から4年次にかけて履修する。A群I類と合わせ、A群として40単位以上を履修する。

【主体性・多様性・協働性】

- ・必修科目における卒業研究では、これまでに獲得した知識ならびに思考力・判断力ならびに表現力の統合化による実践的かつ主体的な解決力の涵養を到達目標とし、実験とともに研究成果のプレゼンテーションを行う。
- ・選択科目B群III類から、幅広いリベラルアーツや建学の精神などを習得することを到達目標とし、1年次以降8単位以上を履修する。

■カリキュラムの特徴

【必修科目】

解剖学、組織学、細胞生物学、生理学、など人体の構造と機能の基本を学ぶ科目群と、病理学、微生物学、免疫学など疾病のしくみとそれに対応する生体の防御機能を学ぶ科目群、そして、生命現象を解き明かす手法を学ぶ分子生物学、ケミカルバイオロジー、生体物質分析化学などの科目を設置しており、またこれらの科目の理解をより深めるためと実践的な技術を総合的に体験する実験実習を必修科目として設置している。さらに、医学概論、生命科学概論など、医学と生命科学の基本概念を総合的に理解する科目も設置している。

【選択科目A群】

必修科目で修得した基礎知識のうえにさらに高度な専門知識を習得させる科目内容となるほか、医学、生命科学の応用科目群を配置し、基礎科目群の履修で涵養された基礎力をベースとして、学生が指向するさまざまな生命医科学分野への将来展開へ向けた準備を行う。

【選択科目A群II類】

他学科の科目も多数設置し、医工学、医情報に関する専門知識など幅広い知識と応用力を身につけることが可能である。

【選択科目B群】

英語8単位、ドイツ語又はフランス語4単位に加え、全学共通教養教育科目、他学部設置科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目、同志社女子大学単位互換科目を設置している。

医生命システム学科

卒業要件	必修科目	選択科目					合計
		A群		B群			
	I類	II類	I類	II類	III類		
	56	20		8	4	8	128
	40		20				
		72					

【設置科目】

必修科目	単位
生命医科学概論	2
生物学	2
化学	2
微生物学	2
細胞生物学 I	2
公衆衛生学	2
医生命基礎実験	2
医工・医情報学概論	2
臨床医学概論	2
人体の構造と機能 I	2
ケミカルバイオロジー	2
分子生物学 I	2
生体物質分析化学	2
システム生物学	2
ケア倫理学	2
ヒトの病理と防御システム I	2
ヒトの病理と防御システム II	2
生化学	2
物理学基礎	2
コンピュータプログラミング	2
分子生物学実験	2
人体の構造と機能 II	2
人体の構造と機能 III	2
人体の構造と機能実験	2
薬理学	2
基礎数理統計学	2
卒業論文 I	2
卒業論文 II	2

選択科目	単位
選択科目 A群 I類	
細胞生物学 II	2
分子生物学 II	2
内科学概論	2
特別講義 A	2
特別講義 B	2
分子創薬科学	2
バイオマーカー解析学	2
アンチエイジング	2
機能性食品医学	2
神経科学	2
神経情報伝達制御学	2
脳神経機構学	2
ストレス適応科学	2
遺伝情報医学 (病態生理学)	2
外科学概論 (病態生理学)	2
再生医科学	2
応用生化学	2
ヒトの知的機能と遺伝要因	2
創薬化学	2
物質代謝調節学	2
スポーツ医学の未来	2
発生遺伝学概論	2
ニューロサイエンス入門 1	2
ニューロサイエンス入門 2	2

選択科目	単位
選択科目 A群 II類	
線形代数学 I	2
代数学 I	2
知覚情報システム論	2
数学基礎	2
微分積分学 I	2
微分積分学 II	2
スポーツ運動学	2
生物情報概論	2
電気回路・電子回路	2
医用機器概論	2
計測工学	2
電磁気と生命体	2
科学技術概論 I	2
科学技術概論 II	2
アウトリーチ実習	2
サイエンスライティング	2
サイエンスとインテリジェンス	2
サイエンス・ナウ 1	2
サイエンス・ナウ 3	2
サイエンス・ナウ 4	2
サイエンス・ナウ 5	2
サイエンス・ナウ 6	2
サイエンス・ナウ 7	2
ビジネスワークショップ	2
メディカルワークショップ	2
取材・インタビュー実践講座	2
未知型探索ビジネスワークショップ	2
海外キャリアリサーチ	2
スポーツ・バイオメカニクス	2
リハビリテーション医学	2
医用情報処理	2
制御工学 I	2
バイオマテリアル	2
バイオメカニクス	2
BioMEMS	2
放射線科学	2
生物情報	2
バイオインフォマティクス	2
応用数理統計学	2
電磁気学	2
画像処理	2
医用画像工学	2
医用機械設計法	2
流体力学	2
医用ロボット	2
メカトロニクス	2
デジタル信号処理	2
知覚認知	2
電子計測	2
超音波エレクトロニクス	2
臨床解剖学概論	2
特別講義	2

選択科目	単位
選択科目 B群 I類	
全学共通教養教育科目 外国語教育科目 (英語)	

選択科目	単位
選択科目 B群 II類	
全学共通教養教育科目 外国語教育科目 (ドイツ語またはフランス語)	

選択科目	単位
選択科目 B群 III類	
全学共通教養教育科目 同志社科目 キャリア形成支援科目 国際教養科目 クリエイティブ・ジャパン科目 人文科学系科目 社会科学系科目 自然・人間科学系科目 プロジェクト科目 複合領域科目 外国語教育科目 (英、独、仏語除く) 保健体育科目 他学部設置科目 同志社女子大単位互換科目 大学コンソーシアム単位互換科目 テュービンゲン大学 IES 科目	

自由科目	単位
教科教育法 A 1 (理科)	2
教科教育法 A 2 (理科)	2
教科教育法 B (理科)	2
教科教育法 C (理科)	2
教職実践演習 (中・高)	2
教育実習指導	1
教育実習 A	2
教育実習 B	2
教育実習 C	4
地学概論 I	2
地学概論 II	2
地学実験	1
物理実験	2
化学実験	3
学校図書館サービス論	2
特別ニーズ教育論	2
スクールインターンシップ	2
サイエンス・ナウ 2	2
特別講義アドバンス	2

■ 医生命システム学科での履修上の注意

1. 卒業・進級要件および卒業論文Ⅰ、Ⅱの履修について

【卒業要件】

必修科目 56 単位、選択科目 72 単位以上、合計 128 単位以上を履修すること。選択科目については、A群Ⅰ類から 20 単位を含め A群から 40 単位以上、B群から 20 単位以上（B群Ⅰ類から 8 単位、B群Ⅱ類から 4 単位、B群Ⅲ類から 8 単位を含む）履修すること。

【進級要件】

卒業論文の指導は、次の①、②の要件をともに満たしている者に対して行います。4 年次に卒業論文を登録する予定の方は、春学期の登録時点で進級要件を満たすよう科目登録してください。

- ① 3 年以上修学し（休学期間は含まない）、前頁卒業必要単位数のうち 112 単位以上を修得した者。
- ② 第 3 年次までの必修科目および選択科目 A群Ⅰ類を合わせて 58 単位以上修得した者。
（ただし、ここで算入できる A群Ⅰ類の単位数は 10 単位までとします）

【卒業論文Ⅰ、Ⅱ 履修上の注意】

卒業論文Ⅰ・Ⅱは、研究室配属で決定している教員のクラスを履修すること。

【卒業論文Ⅰの秋学期開講、卒業論文Ⅱの春学期開講について】

- ・進級必要単位は修得しているが修業年数が不足している場合は、秋学期の卒業論文Ⅰ、次年度春学期の卒業論文Ⅱの履修を認めます。
- ・原則として、卒業論文Ⅱのみを残して卒業しない場合は、次年度春学期の卒業論文Ⅱの履修を認めます。

2. B群Ⅰ類（外国語教育科 英語）の履修について

<英語> B群Ⅰ類（英語）の 8 単位には、以下①～④を必ず含んでいなければなりません。

- ① コミュニカティブ・イングリッシュ 1・2
- ② アナリティカル・リーディング 1・2
- ③ イングリッシュ・セミナー 1・2（またはイングリッシュ・セミナー 3）
- ④ イングリッシュ・ワークショップ 1・2（またはイングリッシュ・ワークショップ 3）

※入学前および在学中に TOEIC® Listening & Reading Test、TOEFL iBT® テストなどにより一定の水
準以上の成果を修めた場合に、申請により B群Ⅰ類の単位として認定します（詳細は『登録要領』を参照
してください）。ただし、上記①～④の科目の完修が必要です。

3. B群Ⅱ類（外国語教育科目 ドイツ語またはフランス語）の履修について

B群Ⅱ類の 4 単位には、選択した語部に応じて以下の各科目を必ず含んでいなければなりません。

- <ドイツ語> ドイツ語入門Ⅰ・Ⅱまたはドイツ語インテンシヴⅠ・Ⅱ
<フランス語> フランス語入門Ⅰ・Ⅱまたはフランス語インテンシヴⅠ・Ⅱ

※帰国生等、既に一定の語学能力を有していると認められる者については、この限りではない。卒業要件の詳細については教務センター（生命医科学部）窓口で確認すること。

※外国人留学生が日本語・日本文化教育科目の「日本語 1（読解 AⅥ）～1（文法 IX）」、「日本語 2（読解 AⅥ）～2（文法 IX）」、「ビジネス日本語 C、D」の科目を登録履修した場合は B群Ⅱ類に算入し、4 単位以上履修した場合はドイツ語またはフランス語入門Ⅰ・Ⅱを履修したものとみなします。

4. B群Ⅲ類（外国語教育科目英・独・仏以外）の履修について

外国語教育科目のうち、英語、ドイツ語、フランス語以外の外国語科目を登録履修した場合は、B群Ⅲ類に算入されます。

医生命システム学科カリキュラム系統図

	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	
	春学期	春学期	春学期	春学期	
基礎科目	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>生物学※</p> <p>化学※</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>化学※</p> <p>生物学※</p> </div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>コンピュータプログラミング※</p> <p>物理学基礎</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>コンピュータプログラミング※</p> </div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>基礎数理統計学</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>基礎数理統計学</p> </div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>基礎数理統計学</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>基礎数理統計学</p> </div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>基礎数理統計学</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>基礎数理統計学</p> </div> </div>
共通基礎科目	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>生命医科学概論※</p> <p>医工・医情報学概論※</p> <p>公衆衛生学</p> <p>臨床医学概論</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>医工・医情報学概論※</p> <p>生命医科学概論※</p> <p>ケア倫理学</p> </div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>人体の構造と機能 I※</p> <p>生化学※</p> <p>内科学概論</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>生化学※</p> <p>人体の構造と機能 I※</p> </div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>人体の構造と機能 II</p> <p>人体の構造と機能 I※</p> <p>外科学概論 (病態生理学) 外科学概論</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>生化学※</p> <p>人体の構造と機能 I※</p> </div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>人体の構造と機能 II</p> <p>人体の構造と機能 I※</p> <p>外科学概論 (病態生理学) 外科学概論</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>生化学※</p> <p>人体の構造と機能 I※</p> </div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>人体の構造と機能 II</p> <p>人体の構造と機能 I※</p> <p>外科学概論 (病態生理学) 外科学概論</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>生化学※</p> <p>人体の構造と機能 I※</p> </div> </div>
医生命基礎科目	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>微生物学</p> <p>細胞生物学 I</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>医生命基礎実験</p> <p>細胞生物学 II</p> </div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>システム生物学</p> <p>生体物質分析化学</p> <p>ヒトの病理と防御システム I</p> <p>ケミカルバイオロジー</p> <p>分子生物学 I</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>システム生物学</p> <p>生体物質分析化学</p> <p>ヒトの病理と防御システム II</p> <p>再生医科学</p> <p>分子生物学 II</p> </div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>人体の構造と機能 II</p> <p>人体の構造と機能 I※</p> <p>薬理学</p> <p>再生医科学</p> <p>分子生物学実験</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>人体の構造と機能 II</p> <p>人体の構造と機能 I※</p> <p>薬理学</p> <p>再生医科学</p> <p>分子生物学実験</p> </div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>人体の構造と機能 II</p> <p>人体の構造と機能 I※</p> <p>薬理学</p> <p>再生医科学</p> <p>分子生物学実験</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>人体の構造と機能 II</p> <p>人体の構造と機能 I※</p> <p>薬理学</p> <p>再生医科学</p> <p>分子生物学実験</p> </div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>人体の構造と機能 II</p> <p>人体の構造と機能 I※</p> <p>薬理学</p> <p>再生医科学</p> <p>分子生物学実験</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>人体の構造と機能 II</p> <p>人体の構造と機能 I※</p> <p>薬理学</p> <p>再生医科学</p> <p>分子生物学実験</p> </div> </div>
医生命応用科目	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>スポーツ医学の未来</p> <p>養生遺伝学概論</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>分子創薬科学</p> <p>機能性食品医学</p> <p>脳神経機構学</p> <p>神経情報伝達制御学</p> <p>遺伝情報医学 (病態生理学) 遺伝情報医学</p> <p>創薬化学</p> </div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>脳科学特論※ (2014年度生以前)</p> <p>ニューロサイエンス入門1</p> <p>ヒトの知的機能と遺伝要因</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>脳科学特論※ (2014年度生以前)</p> <p>ニューロサイエンス入門2</p> </div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>分子創薬科学</p> <p>機能性食品医学</p> <p>脳神経機構学</p> <p>神経情報伝達制御学</p> <p>遺伝情報医学 (病態生理学) 遺伝情報医学</p> <p>創薬化学</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>分子創薬科学</p> <p>機能性食品医学</p> <p>脳神経機構学</p> <p>神経情報伝達制御学</p> <p>遺伝情報医学 (病態生理学) 遺伝情報医学</p> <p>創薬化学</p> </div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>分子創薬科学</p> <p>機能性食品医学</p> <p>脳神経機構学</p> <p>神経情報伝達制御学</p> <p>遺伝情報医学 (病態生理学) 遺伝情報医学</p> <p>創薬化学</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>分子創薬科学</p> <p>機能性食品医学</p> <p>脳神経機構学</p> <p>神経情報伝達制御学</p> <p>遺伝情報医学 (病態生理学) 遺伝情報医学</p> <p>創薬化学</p> </div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>卒業論文 I</p> <p>卒業論文 II</p> <p>分子生命/予防医学研究室</p> <p>神経病理学研究室</p> <p>神経生理学研究室</p> <p>システム生命科学研究室</p> <p>再生医学/遺伝情報研究室</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>卒業論文 I</p> <p>卒業論文 II</p> <p>分子生命/予防医学研究室</p> <p>神経病理学研究室</p> <p>神経生理学研究室</p> <p>システム生命科学研究室</p> <p>再生医学/遺伝情報研究室</p> </div> </div>

<凡例>
 必修科目
 A群 I類

※ 春学期・秋学期のどちらかで履修する科目

選択科目B群 設置科目

■ B群Ⅰ類（英語科目）

該当する入学年度の『全学共通教養教育科目履修要項』の外国語教育科目・英語科目を参照してください。

【履修上の注意】 以下の科目を必ず含む8単位以上を履修すること。

「コミュニケーション・イングリッシュ1・2」
「アナリティカル・リーディング1・2」
「イングリッシュ・セミナー1・2」または「3」
「イングリッシュ・ワークショップ1・2」または「3」

■ B群Ⅱ類（ドイツ語・フランス語）

該当する入学年度の『全学共通教養教育科目履修要項』の外国語教育科目・ドイツ語科目・フランス語科目を参照してください。

【履修上の注意】

ドイツ語・フランス語のいずれかの「入門Ⅰ・Ⅱ」または「インテンシヴⅠ・Ⅱ」を必ず含む4単位以上を履修すること。

※帰国生等、既に一定の語学能力を有していると認められる者については、この限りではない。卒業要件の詳細については教務センター（生命医科学部）窓口で確認すること。

■ B群Ⅲ類

全学共通教養教育科目
同志社女子大単位互換科目
大学コンソーシアム単位互換科目
日本語・日本文化教育科目

該当する入学年度の『全学共通教養教育科目履修要項』、『同志社女子大単位互換ガイドブック』、『大学コンソーシアム単位互換ガイドブック』、『日本語・日本文化教育科目履修の手引き』を参照ください。

他学部設置科目

各学部の履修要項を参照ください。

教職免許関係科目

該当する入学年度の『免許・資格関係 履修要項』（別冊）を参照ください。

外国語による科目の開講について

外国語による授業科目として、下記科目が開講されている。※

開講校地	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間	週時間	単位	配当年次	備考
	科目	クラス							
今	10103147		アメリカ史における宗教	GAVIN J. CAMPBELL	秋学期	2	2	2～	英語により授業を行う
今	10912157		ジェンダーの社会学	KIM VIKTORIYA	春学期	4	4	2～	英語により授業を行う
今	10912301		Contemporary Japanese Culture and Society	JENNIFER MCGUIRE	秋学期	4	4	2～	英語により授業を行う
今	10932148		国際コミュニケーション論	BRIAN COVERT	春学期	2	2	2～	英語により授業を行う
今	10952140		Education and World Culture (1)	WILLIAM ROBERT STEVENSON III	春学期	2	2	2～	英語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可)
今	10952135		Globalization, Education, and Culture(1)	WILLIAM ROBERT STEVENSON III	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2016・2017年度生のみ登録可)
今	10952131		Globalization and Education(1)	WILLIAM ROBERT STEVENSON III	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2015年度以前生のみ登録可)
今	10952141		Education and World Culture (2)	WILLIAM ROBERT STEVENSON III	秋学期	2	2	2～	英語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可)
今	10952136		Globalization, Education, and Culture(2)	WILLIAM ROBERT STEVENSON III	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2016・2017年度生のみ登録可)
今	10952132		Globalization and Education(2)	WILLIAM ROBERT STEVENSON III	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2015年度以前生のみ登録可)
今	10952162		Topics in Education and Development	乾 美 紀	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可)
今	10952172		Topics in Overseas Education	乾 美 紀	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2017年度以前生のみ登録可)
今	10952180		Topics in Multiculturalism and Education	柴 川 真由美	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可)
今	10952174		Special Topics in Education and Culture	柴 川 真由美	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2017年度以前生のみ登録可)
今	10305821	026	特殊講義B (英語講義: Basic Academic English for Political Studies)	Peter Trebilco	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	10305821	027	特殊講義B (英語講義: Intermediate Academic English for Political Studies)	Peter Trebilco	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	10305823	603	特殊講義B (英語講義: International History in the Asia-Pacific Region)	中 達 啓 示	秋学期	2	2	3～	英語により授業を行う
今	10307414		アメリカ法	Colin P.A. Jones	秋学期	2	2	3～	英語により授業を行う
今	10308851	001	Japanese Constitution [Where did it come from? Where is it going?]	阿 川 尚 之	秋学期	2	2	3～	英語により授業を行う (法学部2012年度以降生のみ登録可)
今	10308852	001	Japanese Private Law [Business Law 2020]	高 杉 直	春学期	2	2	3～	英語により授業を行う (法学部2012年度以降生のみ登録可)
今	10308853	001	Special Course in Japanese Law [Legal History 2020]	西 村 安 博	秋学期	2	2	3～	英語により授業を行う (法学部2012年度以降生のみ登録可)
今	10308853	002	Special Course in Japanese Law [Company Law 2020]	米 田 保 晴	秋学期集中		2	3～	英語により授業を行う (法学部2012年度以降生のみ登録可)
今	10308853	003	Special Course in Japanese Law [Antimonopoly Law 2020]	和久井 理 子	春学期	2	2	3～	英語により授業を行う (法学部2012年度以降生のみ登録可)
今	10308854	001	Current Issues in Japanese Law [Topical issues of Japanese Law 2020]	Karyn Kandell	秋学期	2	2	3～	英語により授業を行う (法学部2012年度以降生のみ登録可)
今	10308855	001	American Law [Criminal Law]	Shawn Michael Huizenga	秋学期	2	2	3～	英語により授業を行う (法学部2012年度以降生のみ登録可)
今	10308856	001	Asian Law [Chinese Private Law 2020]	黄 ジン霆	秋学期集中		2	3～	英語により授業を行う (法学部2012年度以降生のみ登録可)
今	10308856	002	Asian Law [Hong Kong Contract Law 2020]	Anselmo Reyes	春学期集中		2	3～	英語により授業を行う (法学部2012年度以降生のみ登録可)

開講 校地	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間	週時間	単位	配当 年次	備考
	科目	クラス							
今	10308857	001	European Law [Selected judgements of the ECHR in the area of right to life, torture etc.]	Hans Peter Marutschke	春学期	2	2	3～	英語により授業を行う (法学部2012年度以降生のみ登録可)
今	10308857	002	European Law [Selected judgements of the ECJ in the area of freedom, security and justice]	Hans Peter Marutschke	秋学期	2	2	3～	英語により授業を行う (法学部2012年度以降生のみ登録可)
今	10308858	001	Current Issues in Comparative Law [Cross-Cultural Negotiation 2020]	Jay Klaphake	春学期	2	2	3～	英語により授業を行う (法学部2012年度以降生のみ登録可)
今	10308858	002	Current Issues in Comparative Law [Private International Law 2020]	西 谷 祐 子	秋学期	2	2	3～	英語により授業を行う (法学部2012年度以降生のみ登録可)
今	10308858	003	Current Issues in Comparative Law [Case Studies on Family and Business Life 2020 (1)]	野 村 美 明	春学期集中		2	3～	英語により授業を行う (法学部2012年度以降生のみ登録可)
今	10308858	004	Current Issues in Comparative Law [Case Studies on Family and Business Life 2020 (2)]	野 村 美 明	秋学期集中		2	3～	英語により授業を行う (法学部2012年度以降生のみ登録可)
今	10308858	005	Current Issues in Comparative Law [Comparative Insolvency Law]	Wee Meng Seng	春学期集中		2	3～	英語により授業を行う (法学部2012年度以降生のみ登録可)
今	10308859	001	International Law [Current Topics in the Far East]	新 井 京	春学期	2	2	3～	英語により授業を行う (法学部2012年度以降生のみ登録可)
今	10308860	001	International Arbitration [International Commercial Arbitration 2020]	高 橋 宏 司	秋学期	2	2	3～	英語により授業を行う (法学部2012年度以降生のみ登録可)
今	10308860	002	International Arbitration [Commercial and Investment 2020]	Anselmo Reyes	秋学期集中		2	3～	英語により授業を行う (法学部2012年度以降生のみ登録可)
今	10308860	003	International Arbitration [Investor-State Arbitration]	James Claxton	春学期	2	2	3～	英語により授業を行う (法学部2012年度以降生のみ登録可)
今	10308861	001	International Institutions and Global Law [GATT and WTO]	阿 部 道 明	春学期集中		2	3～	英語により授業を行う (法学部2012年度以降生のみ登録可)
今	10308862	001	Current Issues in Global Law [International Litigation]	高 橋 宏 司	秋学期	2	2	3～	英語により授業を行う (法学部2012年度以降生のみ登録可)
今	10308862	002	Current Issues in Global Law [Theories of Global Justice 2020]	Jay Klaphake	秋学期	2	2	3～	英語により授業を行う (法学部2012年度以降生のみ登録可)
今	10308862	003	Current Issues in Global Law [Identity and Data Privacy in a Global Context]	Colin P.A. Jones	秋学期	2	2	3～	英語により授業を行う (法学部2012年度以降生のみ登録可)
今	10308862	004	Current Issues in Global Law [International Law, Israel & Palestine: Selected Issues]	Yael Ronen	春学期集中		2	3～	英語により授業を行う (法学部2012年度以降生のみ登録可)
今	10308862	005	Current Issues in Global Law [Global and Comparative Perspectives on Competition Law]	Mel Marquis	秋学期集中		2	3～	英語により授業を行う (法学部2012年度以降生のみ登録可)
今	10308862	006	Current Issues in Global Law [International Business Dispute Management]	James Claxton	秋学期	2	2	3～	英語により授業を行う (法学部2012年度以降生のみ登録可)
今	10308863		International Commercial Arbitration Moot 1	小 倉 隆	春学期	2	2	3～	英語により授業を行う (法学部2012年度以降生のみ登録可)
今	10308864		International Commercial Arbitration Moot 2	小 倉 隆	秋学期	2	2	3～	英語により授業を行う (法学部2012年度以降生のみ登録可)
今	10308865		International Law Moot 1	新 井 京	春学期	2	2	3～	英語により授業を行う (法学部2012年度以降生のみ登録可)
今	10308866		International Law Moot 2	新 井 京	秋学期	2	2	3～	英語により授業を行う (法学部2012年度以降生のみ登録可)
今	10308875		Public Opinion and Political Participation in Japan	西 澤 由 隆	秋学期	2	2	3～	英語により授業を行う (法学部2013年度以降生のみ登録可)
今	10403323	403	エコミクス・ワークショップ・プライマリ2 ーロシアの天然資源開発ー	Tamara LITVINENKO	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2020年度生のみ登録可)
今	10403323	404	エコミクス・ワークショップ・プライマリ2 ー東アジアのエネルギー資源開発と鉱山開発ー	Tamara LITVINENKO	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2020年度生のみ登録可)
今	10403323	405	エコミクス・ワークショップ・プライマリ2 ー経済地理ー	Tamara LITVINENKO	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2020年度生のみ登録可)
今	10403323	406	エコミクス・ワークショップ・プライマリ2 ー偉大な哲学者とその理論ー	Patricia AGARD	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2020年度生のみ登録可)

開講校地	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間	週時間	単位	配当年次	備考
	科目	クラス							
今	10403323	408	エコノミクス・ワークショップ・プライマリ2 －海外留学をめざす人のための準備講座：留学成功の秘訣－	Tamara LITVINENKO	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2020年度生のみ登録可)
今	10407323	129	エコノミクス・ワークショップ2 －伝統文化と国際ビジネス1－	Patricia AGARD	春学期	2	2	2～	英語により授業を行う (2012～2019年度生のみ登録可)
今	10407323	403	エコノミクス・ワークショップ2 －ロシアの天然資源開発－	Tamara LITVINENKO	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2012～2019年度生のみ登録可)
今	10407323	404	エコノミクス・ワークショップ2 －東北アジアのエネルギー資源開発と鉱山開発－	Tamara LITVINENKO	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2012～2019年度生のみ登録可)
今	10407323	405	エコノミクス・ワークショップ2 －経済地理－	Tamara LITVINENKO	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2012～2019年度生のみ登録可)
今	10407323	406	エコノミクス・ワークショップ2 －偉大な哲学者とその理論－	Patricia AGARD	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2012～2019年度生のみ登録可)
今	10407323	407	エコノミクス・ワークショップ2 －アメリカ史(1607年～1699年)－	Patricia AGARD	春学期	2	2	2～	英語により授業を行う (2012～2019年度生のみ登録可)
今	10407323	408	エコノミクス・ワークショップ2 －海外留学をめざす人のための準備講座：留学成功の秘訣－	Tamara LITVINENKO	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2012～2019年度生のみ登録可)
今	10523620	001	専門外国語特講 -1 Language and Culture in International Business	佐藤 研一	春学期	2	2	3～	英語による講義 (商学部生のみ登録可)
今	10523620	002	専門外国語特講 -2 Global Business History	西村 成弘	秋学期	2	2	3～	英語による講義 (商学部生のみ登録可)
今	10523620	003	専門外国語特講 -3 International Career Development	ALEX M.HAYASHI	秋学期	2	2	3～	英語による講義 (商学部生のみ登録可)
今	10702003	019	アカデミック・スキル1(読解) 「新しい市民参加の形」	西山 湊	秋学期	2	2	1	英語による講義 (政策学部生のみ登録可)
今	10702003	020	アカデミック・スキル1(読解) 「子ども・若者の政治参加：ロジャー・ハートの「子ども参加論」を読む」	西山 湊	秋学期	2	2	1	英語による講義 (政策学部生のみ登録可)
今	10702004	212	アカデミック・スキル2(伝達) 「アジア太平洋とユーラシア大陸における地域枠組みの比較分析」	松本 明日香	春学期	2	2	2	英語による講義 (政策学部生のみ登録可)
今	10702004	213	アカデミック・スキル2(伝達) 「アジア太平洋とユーラシア大陸における地域枠組みの比較分析」	松本 明日香	春学期	2	2	2	英語による講義 (政策学部生のみ登録可)
今	10702626	030	政策トピックス -㊸ 「民主主義の危機と民主主義のイノベーション」	西山 湊	秋学期	2	2	2～	英語による講義 (2008年度以降生のみ登録可)
田	11610202		技術英語 I	Ivan TANEV	春学期	2	1	3～	英語により授業を行う (理工学部インテリジェント情報工学科生のみ登録可)
田	11615046		技術英語	Ivan TANEV	秋学期	2	2	3～	英語により授業を行う (理工学部情報システムデザイン学科生のみ登録可)
田	11615084		マルチエージェント工学	Ivan TANEV	秋学期	2	2	2～	英語により授業を行う (理工学部情報システムデザイン学科生のみ登録可)
今	12234051		Global and Regional Cultural Studies Seminar 1	SUSANNA PAVLOSKA	春学期	2	2	2～	英語により授業を行う (グローバル地域文化学部生のみ登録可)
今	12234052		Global and Regional Cultural Studies Seminar 2	和泉 真澄	春学期	2	2	2～	英語により授業を行う (グローバル地域文化学部生のみ登録可)
今	12234053		Global and Regional Cultural Studies Seminar 3	ESTA TINA OTTMAN	秋学期	2	2	2～	英語により授業を行う (グローバル地域文化学部生のみ登録可)
今	12234054		Global and Regional Cultural Studies Seminar 4	ROBERT JOHN CROSS	秋学期	2	2	2～	英語により授業を行う (グローバル地域文化学部生のみ登録可)
今	16000225	051	比較言語文化論 2 - 51 －言語・知覚・世界－	潘 哲毅	秋学期	2	2	1～	中国語により授業を行う

開講 校地	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間	週時間	単位	配当 年次	備考
	科目	クラス							
今	16000200	000	ジョイント・セミナー 比較文化論	二 村 太 郎 KASUMI YAMAMOTO	秋学期	4	4	2～	主に英語により授業を行う
今	16000205	053	日本の伝統と芸能	高 永 珍	春学期	2	2	1～	コリア語により授業を行う (2017年度以前生のみ登録可)
今	16000215	052	日本とアジア2	高 永 珍	秋学期	2	2	1～	コリア語により授業を行う
今	(クラスにより異なる)		スタンフォード大学科目	(複数クラス開講)	春学期 秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (複数クラス開講) 春学期科目は2年次生以上が登録可能
今	(クラスにより異なる)		A K P 科目	(複数クラス開講)	春学期 秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (複数クラス開講) 春学期科目は2年次生以上が登録可能
今	(クラスにより異なる)		K C J S 科目	(複数クラス開講)	春学期 秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (複数クラス開講) 春学期科目は2年次生以上が登録可能
今	16606500	051	テュービンゲン大学科目	MICHAEL WACHUTKA	春学期	2	2	1～	ドイツ語により授業を行う 春学期科目は2年次生以上が登録可能
今	16606500	052	テュービンゲン大学科目	MICHAEL WACHUTKA	秋学期	2	2	1～	ドイツ語により授業を行う
今	16000701		Mid-college "Be Strong" Program	ROBERT WILLIAM ASPINALL 村 田 晃 嗣 八 木 匡 佐 藤 研 一 川 浦 昭 彦 根 岸 祥 子 SUSANNA PAVLOSKA	春学期	4	4	1～	英語により授業を行う
田	16000702	001	Introduction to Japanese Culture in the Global Context	DIAZ SANCHO IVAN	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000702	051	Introduction to Japanese Culture in the Global Context	DIAZ SANCHO IVAN	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000702	052	Introduction to Japanese Culture in the Global Context	DIAZ SANCHO IVAN	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う
田	16000703	001	Introduction to Japanese Society in the Global Context	ROBERT WILLIAM ASPINALL	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000703	051	Introduction to Japanese Society in the Global Context	ROBERT WILLIAM ASPINALL	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000703	052	Introduction to Japanese Society in the Global Context	ROBERT WILLIAM ASPINALL	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う
田	16000704	001	Introduction to the Nature of Japan and Asia in the Global Context	有 井 健	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
田	16000704	002	Introduction to the Nature of Japan and Asia in the Global Context	有 井 健	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000704	051	Introduction to the Nature of Japan and Asia in the Global Context	有 井 健	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000704	052	Introduction to the Nature of Japan and Asia in the Global Context	有 井 健	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000705	051	Humanities and Global Issues	池 端 千 賀 子	春学期	2	2	2～	英語により授業を行う
今	16000705	052	Humanities and Global Issues	池 端 千 賀 子	秋学期	2	2	2～	英語により授業を行う
今	16000706		Social Sciences and Global Issues	ROBERT WILLIAM ASPINALL	秋学期	2	2	2～	英語により授業を行う
田	16000707	001	Natural Sciences and Global Issues	有 井 健	春学期	2	2	2～	英語により授業を行う
今	16000707	051	Natural Sciences and Global Issues	有 井 健	春学期	2	2	2～	英語により授業を行う
今	16000708	051	Japan in Modern World History	DIAZ SANCHO IVAN	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000708	052	Japan in Modern World History	DIAZ SANCHO IVAN	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う

開講 校地	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間	週時間	単位	配当 年次	備考
	科目	クラス							
今	16000709	051	International Relations in the Postwar Era	GARTH WARRIES	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000709	052	International Relations in the Postwar Era	GARTH WARRIES	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う
田	16000710	001	Issues in Japanese Culture	IGNACIO ARISTIMUNO	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000710	051	Issues in Japanese Culture	IGNACIO ARISTIMUNO	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う
田	16000711	001	Japanese Thought and Religion 1	IGNACIO ARISTIMUNO	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2016～2017年度生のみ登録可)
今	16000711	051	Japanese Thought and Religion 1	IGNACIO ARISTIMUNO	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2016～2017年度生のみ登録可)
田	16000212	001	日本の思想・宗教 1	IGNACIO ARISTIMUNO	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2015年度以前生のみ登録可)
今	16000212	052	日本の思想・宗教 1	IGNACIO ARISTIMUNO	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2015年度以前生のみ登録可)
田	16000712	001	Japanese Thought and Religion 2	IGNACIO ARISTIMUNO	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2016～2017年度生のみ登録可)
今	16000712	051	Japanese Thought and Religion 2	IGNACIO ARISTIMUNO	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2016～2017年度生のみ登録可)
田	16000213	001	日本の思想・宗教 2	IGNACIO ARISTIMUNO	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2015年度以前生のみ登録可)
今	16000213	052	日本の思想・宗教 2	IGNACIO ARISTIMUNO	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2015年度以前生のみ登録可)
田	16000713	001	Tradition and Art in Japan 1	IGNACIO ARISTIMUNO	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2016～2017年度生のみ登録可)
今	16000713	051	Tradition and Art in Japan 1	IGNACIO ARISTIMUNO	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2016～2017年度生のみ登録可)
田	16000207	002	日本の伝統と芸術	IGNACIO ARISTIMUNO	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2015年度以前生のみ登録可)
今	16000207	054	日本の伝統と芸術	IGNACIO ARISTIMUNO	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2015年度以前生のみ登録可)
田	16000714	001	Tradition and Art in Japan 2	IGNACIO ARISTIMUNO	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2016～2017年度生のみ登録可)
今	16000714	051	Tradition and Art in Japan 2	IGNACIO ARISTIMUNO	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2016～2017年度生のみ登録可)
田	16000207	001	日本の伝統と芸術	IGNACIO ARISTIMUNO	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2015年度以前生のみ登録可)
今	16000207	053	日本の伝統と芸術	IGNACIO ARISTIMUNO	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2015年度以前生のみ登録可)
今	16000216	051	Japan Today 1	OMAR YUSEF BAKER	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2017年度以前生のみ登録可)
今	16000216	052	Japan Today 1	OMAR YUSEF BAKER	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2017年度以前生のみ登録可)
今	16000217	051	Japan Today 2	OMAR YUSEF BAKER	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2017年度以前生のみ登録可)
今	16000217	052	Japan Today 2	OMAR YUSEF BAKER	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2017年度以前生のみ登録可)
田	16000715	001	Democracy and Politics : A Comparative Perspective	ROBERT WILLIAM ASPINALL	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000715	051	Democracy and Politics : A Comparative Perspective	ROBERT WILLIAM ASPINALL	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う
田	16000716	001	Education in the Age of Globalization	ROBERT WILLIAM ASPINALL	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000716	051	Education in the Age of Globalization	ROBERT WILLIAM ASPINALL	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
田	16000717	001	Issues in Intercultural Communication	ROBERT WILLIAM ASPINALL	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う

開講 校地	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間	週時間	単位	配当 年次	備考
	科目	クラス							
今	16000717	051	Issues in Intercultural Communication	ROBERT WILLIAM ASPINALL	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000718		Economy and Business in the Global Context 1	森 宏一郎	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000719		Economy and Business in the Global Context 2	森 宏一郎	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000720	051	Critical Social Issues in Contemporary Japan 1	WILLIAM BRADLEY	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2016年度以降生のみ登録可)
今	16000720	052	Critical Social Issues in Contemporary Japan 1	WILLIAM BRADLEY	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2016年度以降生のみ登録可)
今	16000218	051	日本の社会事情	WILLIAM BRADLEY	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2015年度以前生のみ登録可)
今	16000218	052	日本の社会事情	WILLIAM BRADLEY	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2015年度以前生のみ登録可)
今	16000721	051	Critical Social Issues in Contemporary Japan 2	WILLIAM BRADLEY	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000721	052	Critical Social Issues in Contemporary Japan 2	WILLIAM BRADLEY	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000724		Statistics for the Social Sciences and Humanities	VOLODYMYR MYGDALSKYY	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000725		Introduction to Computer Science and Information Technology	VOLODYMYR MYGDALSKYY	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000726		Human Science in the Global Age	MATIAS JOSE CALDEZ	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000728		Conservation of Japanese Nature and Environment	有 井 健	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000730		Science of Natural Disasters	有 井 健	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000731		Principles of Economics	森 宏一郎	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000732		Environmental Economics and Sustainability	森 宏一郎	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16091202	051	Advanced Seminar 2	ROBERT WILLIAM ASPINALL	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16091202	052	Advanced Seminar 2	ROBERT WILLIAM ASPINALL	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000803	053	日本の伝統と芸能	高 永 珍	春学期	2	2	1～	コリア語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可)
田	16000806	001	Japanese Thought and Religion 1	IGNACIO ARISTIMUNO	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可)
今	16000806	051	Japanese Thought and Religion 1	IGNACIO ARISTIMUNO	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可)
田	16000807	001	Japanese Thought and Religion 2	IGNACIO ARISTIMUNO	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可)
今	16000807	051	Japanese Thought and Religion 2	IGNACIO ARISTIMUNO	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可)
田	16000808	001	Tradition and Art in Japan 1	IGNACIO ARISTIMUNO	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可)
今	16000808	051	Tradition and Art in Japan 1	IGNACIO ARISTIMUNO	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可)
田	16000809	001	Tradition and Art in Japan 2	IGNACIO ARISTIMUNO	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可)
今	16000809	051	Tradition and Art in Japan 2	IGNACIO ARISTIMUNO	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可)
今	16000810	051	Japan Today 1	OMAR YUSEF BAKER	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可)
今	16000810	052	Japan Today 1	OMAR YUSEF BAKER	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可)

開講 校地	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間	週時間	単位	配当 年次	備考
	科目	クラス							
今	16000811	051	Japan Today 2	OMAR YUSEF BAKER	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可)
今	16000811	052	Japan Today 2	OMAR YUSEF BAKER	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可)

- ※ 先行登録が必要な科目があります。各学部の履修要項・登録要領で確認すること。
- ※ 学部によっては履修できない科目や記載されている配当年次では履修できない場合があります。必ず自分が所属する学部の履修要項・登録要領で確認すること。
- ※ 文学部およびグローバル・コミュニケーション学部の一部の授業科目ならびに国際教育インスティテュートの授業科目は外国語で開講されているが、この表には記載していない。
- ※ 「日本語・日本文化教育科目」、「外国語による科目」についてわからないことがあれば、所属の学部・研究科事務室、各キャンパスの教務センターで相談すること。

第1章 総 則

第1条 本大学は、教育基本法にのっとり、学校教育法の定める大学として、学術を教授研究し、あわせてキリスト教的教育の特色を発揮し、国家社会に有用な人物を養成することを目的とする。

第1条の2 本大学は、教育研究水準の向上を図り、本大学の目的及び社会的使命を達成するため、文部科学大臣の定めるところにより、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。

2 点検及び評価に関する規則は、別に定める。

3 本大学は、第1項の点検及び評価の結果について、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受けるものとする。

第1条の3 本大学は、教育研究活動等の状況について、適切な体制を整えた上で、刊行物への掲載、インターネットの利用その他広く周知を図ることができる方法によって、公表するものとする。

第2条 本大学に、学部、大学院その他の教育研究組織を置く。

2 大学院に関する学則は、別にこれを定める。

第2条の2 本大学は、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を各学部において学科毎に定め、別表Ⅱに記載する。

第2章 学 部

第1節 修業年限、学年、学期及び休業日

第3条 学部の修業年限は、4年とする。

2 在学年限は、8年を超えることができない。

第4条 削除

第5条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

2 学年を次の2学期に分ける。

春学期 4月1日から9月20日まで

秋学期 9月21日から翌年3月31日まで

第6条 休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 「国民の祝日に関する法律」に定める休日

(3) 創立記念日 11月29日

(4) キリスト降誕日 12月25日

(5) 夏期、冬期及び春期休業に関しては、別に定める。

2 前項に規定する休業日において、必要ある場合は授業を行うことがある。また休業日は、臨時に定めることができる。

第2節 学部学科等の組織

第7条 本大学に、次の学部学科を置く。

神学部

神学科

文学部

英文学科

哲学科

美学芸術学科

文化史学科

国文学科

社会学部

社会学科

社会福祉学科

メディア学科

産業関係学科

教育文化学科

法学部

法律学科

政治学科

経済学部

経済学科

商学部

商学科

政策学部

政策学科

文化情報学部

文化情報学科

理工学部

インテリジェント情報工学科

情報システムデザイン学科

電気工学科

電子工学科

機械システム工学科

機械理工学科

機能分子・生命化学科

化学システム創成工学科

環境システム学科

数理システム学科

生命医科学部

医工学科

医情報学科

医生命システム学科

スポーツ健康科学部

スポーツ健康科学科

心理学部

心理学科

グローバル・コミュニケーション学部

グローバル・コミュニケーション学科

グローバル地域文化学部

グローバル地域文化学科

第7条の2 削除

第7条の3 本大学にキリスト教文化センターを置く。

2 キリスト教文化センターに関する規程は、別に定める。

第7条の4 本大学にハリス理化学研究所を置く。

2 ハリス理化学研究所に関する規程は、別に定める。

第7条の5 削除

第7条の6 本大学に歴史資料館を置く。

2 歴史資料館に関する規程は、別に定める。

第7条の7 本大学に日本語・日本文化教育センターを置く。

2 日本語・日本文化教育センターに関する規程は、別に定める。

第7条の8 本大学に全学共通教養教育センターを置く。

2 全学共通教養教育センターに関する規程は、別に定める。

- 第7条の9 本大学に国際教育インスティテュートを置く。
2 国際教育インスティテュートに関する規程は、別に定める。
- 第7条の10 本大学に免許資格課程センターを置く。
2 免許資格課程センターに関する規程は、別に定める。
- 第7条の11 本大学に学習支援・教育開発センターを置く。
2 学習支援・教育開発センターに関する規程は、別に定める。
- 第7条の12 本大学にグローバル教育センターを置く。
2 グローバル教育センターに関する規程は、別に定める。
- 第7条の13 本大学に文部科学省共同利用・共同研究拠点として、赤ちゃん学研究センターを置く。
2 赤ちゃん学研究センターに関する規程は、別に定める。

第3節 教育課程及び履修方法

- 第8条 各学部学科の教育課程及び履修方法は、別表Ⅱにこれを定める。
- 第8条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。
2 本大学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
3 本大学は、第1項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。
- 第8条の3 本大学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。
- 第9条 学生は、所属学部学科の規定に従って、一定単位数の授業科目を履修しなければならない。
2 教育職員免許状を得るための資格及び司書、司書教諭、学芸員の資格を得たい者は、特に指定された授業科目を履修しなければならない。
3 授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、次の基準による。
(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本大学が定める時間の授業をもって1単位とする。
(2) 実験、実習、実技等については、30時間から45時間までの範囲で本大学が定める時間の授業をもって1単位とする。
(3) 第1号に規定する授業の方法と前号に規定する授業の方法を併用する場合の単位数の基準は、前2号に規定する基準を考慮して本大学が定める。
4 前項の規定にかかわらず、卒業論文等の授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定める。
- 第9条の2 本大学は、各学部において教育上有益と認めるときは、学生が学部の定めるところにより他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で認定することができる。
2 第27条の2により留学した大学において単位を修得した者には、前項により認定した単位と合わせて60単位を超えない範囲で認定することができる。

- 3 外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し修得した単位及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修し修得した単位を、前2項により認定した単位と合わせて60単位を超えない範囲で認定することができる。

第9条の3 本大学は、各学部において教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、学部教授会の定めるところにより単位を与えることができる。

2 前項の単位数は、前条第1項、第2項及び第3項と合わせて60単位を超えないものとする。

第9条の4 本大学は、各学部において教育上有益と認めるときは、学生が入学前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本大学において修得したものとして認定することができる。

2 本大学は、各学部において教育上有益と認めるときは、学生が入学前に行った短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、学部の定めるところにより単位を与えることができる。

3 前2項の単位数は、転入学及び編入学の場合を除き、本大学において修得した単位以外のものについては、第9条の2第1項、第2項及び第3項並びに前条第1項により修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

第9条の5 第8条の2第2項の授業の方法により修得する単位は、各学部における卒業に必要な単位数から64単位を除いた単位数を上限として、卒業に必要な単位とすることができる。

第9条の6 本大学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに1年間の授業の計画をあらかじめ明示する。

2 本大学は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行う。

第10条 削除

第4節 試 験

第11条 履修した授業科目については、春学期及び秋学期の終りに定期試験を行う。また臨時に試験を行うことがある。

第12条 削除

第13条 試験の成績は、A、B、C、D及びFで評価し、D以上の成績を合格とする。ただし、学部の定めるところにより、特定の授業科目については試験の成績を、合格又は不合格で評価することができる。

第14条 疾病その他やむを得ない事由により受験できなかった場合は、その授業科目の試験終了後3日以内に願ひ出れば、追試験を行うことがある。

第5節 卒業及び学位の授与

第15条 本大学に4年以上在学し、学部学科所定の教育課程に従って授業科目を履修し、所定の単位を修得した者に卒業の認定を行い、卒業した学部学科の種類により次の学士の学位を授与する。ただし、在学期間に関しては、学部の定めるところにより、所定の単位を優れた成績で修得したと認められる者については、3年以上在学すれば足りるものとする。

学士（神学、英文学、哲学、美学芸術学、文化史学、国文学、社会学、社会福祉学、メディア学、産業関係学、教育文化学、法学、政治学、経済学、商学、政策学、文化情報学、工学、理学、スポーツ健康科学、心理学、グローバル・コミュニケーション学、グローバル地域文化学、国際教養）

2 前項に規定する学位には、「学士（神学）（同志社大学）」のように明記することを必要とする。

第6節 収容定員及び職員組織

第16条 各学部の入学生定員、編入学生定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学部学科別	入学生定員	編入学生定員	収容定員
神学部	63名		252名
神学科	63名		252名
文学部	705名		2,820名
英文学科	315名		1,260名
哲学科	70名		280名
美学芸術学科	70名		280名
文化史学科	125名		500名
国文学科	125名		500名
社会学部	442名		1,768名
社会学科	90名		360名
社会福祉学科	98名		392名
メディア学科	88名		352名
産業関係学科	87名		348名
教育文化学科	79名		316名
法学部	893名		3,572名
法律学科	683名		2,732名
政治学科	210名		840名
経済学部	893名		3,572名
経済学科	893名		3,572名
商学部	893名		3,572名
商学科	893名		3,572名
政策学部	420名		1,680名
政策学科	420名		1,680名
文化情報学部	294名		1,176名
文化情報学科	294名		1,176名
理工学部	756名	20名	3,064名
インテリジェント情報工学科	83名	2名	336名
情報システムデザイン学科	83名	2名	336名
電気工学科	80名	2名	324名
電子工学科	86名	2名	348名
機械システム工学科	96名	2名	388名
エネルギー機械工学科	70名	2名	284名
機能分子・生命化学科	83名	2名	336名
化学システム創成工学科	83名	2名	336名
環境システム学科	51名	2名	208名
数理システム学科	41名	2名	168名
生命医科学部	265名		1,060名
医工学科	100名		400名
医情報学科	100名		400名
医生命システム学科	65名		260名
スポーツ健康科学部	221名		884名
スポーツ健康科学科	221名		884名
心理学部	158名		632名
心理学科	158名		632名
グローバル・コミュニケーション学部	158名		632名
グローバル・コミュニケーション学科	158名		632名
(うち、英語コース)	85名		340名)
グローバル地域文化学部	190名		760名
グローバル地域文化学科	190名		760名
計	6,351名	20名	25,444名

- 第17条 本大学に、教授、准教授、助教及び助手を置く。
- 2 本大学に、特別任用教授、特別任用助教（有期研究員）及び特別任用助手（有期研究員）を置くことができる。
- 3 本大学に、客員教授、客員准教授及び客員助教を置くことができる。
- 第17条の2 本大学に、実験講師を置く。
- 第18条 本大学に、学長を置く。
- 2 学長は、本学を代表するとともに、校務をつかさどり、教職員を統括する。
- 3 学長は、教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、教職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修等を実施する。
- 4 学長に関し必要な事項は、別に定める。
- 第18条の2 本大学に、副学長を置く。
- 2 副学長に関し必要な事項は、別に定める。
- 第18条の3 本大学に、学部長を置く。
- 2 学部長は、学部に関する校務をつかさどる。
- 第18条の4 本大学に、機構長、部長、所長、館長、室長、別科長等を置く。
- 第18条の5 本大学に、学長補佐を置くことができる。
- 2 学長補佐に関し必要な事項は、別に定める。
- 第18条の6 本大学に、その事務を遂行するため、職員を置く。
- 2 事務組織に関する規程は、別に定める。
- 第19条 本大学の各学部に教授会を置く。
- 2 教授会は、学部に関する次の事項を審議する。
- (1) 学生の入学、退学、休学、卒業等に関する事項及び学位の授与に関する事項
 - (2) 教育課程に関する事項
 - (3) 教員の人事に関する事項
 - (4) 学則、学部諸規程に関する事項
 - (5) その他、学部長がつかさどる教育研究に関する事項
- 3 教授会は、学長から諮問された事項について審議する。
- 4 教授会は、学生の入学、卒業及び学位の授与、その他教育研究に関する重要な事項で教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるものについて、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
- 5 教授会の組織及び運営に関する事項は、各学部教授会において定める。
- 第19条の2 本大学に部長会を置く。
- 2 大学及び各学部に通ずる重要事項は、部長会で審議する。
- 3 部長会に関する規定は、別に定める。
- 第19条の3 本大学に大学評議会を置く。
- 2 大学評議会は、本学の中長期的方針に関わる事項を審議し、その達成状況を検証する。
- 3 大学評議会に関する規則は、別に定める。
- 第19条の4 本大学に大学教授会を置く。
- 2 大学教授会は、大学の重要な事項に関し学長の諮問に応じる。

第7節 入学、転入学、編入学、休学、留学、退学、除籍及び再入学

- 第20条 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、学部が必要とする時には、入学の時期を学期の始めとすることができる。
- 第21条 学部第1年次に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当しなければならない。
- (1) 高等学校卒業生
 - (2) 中等教育学校卒業生
 - (3) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む。）
 - (4) 高等学校に文部科学大臣の定める年数以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）であって、本学の定める分野において特に優れた資質を有すると認められたもの
 - (5) 大学への入学に関し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者として、学校教育法施行規則第150条に規定された者
- 第22条 前条の資格を有する入学志願者について、高等学校卒業程度の入学試験を行い、入学を許可する。
- 第23条 学部第2年次及び第3年次では、第2項又は第3項の各号のいずれかに該当する入学志願者について選考を行い、転入学又は編入学を許可することがある。
- 2 第3年次に転入学又は第2年次若しくは第3年次に編入学することができる者は、次のとおりとする。
- (1) 大学第2年次修了者
 - (2) 短期大学卒業生
 - (3) 高等専門学校卒業生
 - (4) 専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者（ただし、学校教育法第90条第1項に規定する大学入学資格を有する者に限る。）
 - (5) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者として、学校教育法施行規則第155条第2項又は同第177条に規定された者並びに文部省令第1号により大学への編入学を認められた者
 - (6) 高等学校の専攻科の課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者（ただし、学校教育法第90条第1項に規定する大学入学資格を有する者に限る。）
- 3 第2年次に転入学することができる者は、次のとおりとする。
- (1) 大学第1年次修了者
 - (2) 外国の大学において前号に準じる課程を修了した者
- 4 第3年次に転入学又は編入学することを許可された転入学生及び編入学生の修業年限は2年とし、在学年限は6年を超えることができない。
- 5 第2年次に転入学又は編入学することを許可された転入学生及び編入学生の修業年限は3年とし、在学年限は7年を超えることができない。
- 第24条 入学志願者は、指定期日までに所定の書類を提出し、別表Iの5に定める入学検定料を納入しなければならない。
- 2 災害等の特別な事情により入学検定料の納入が困難であると認められる入学志願者には、申請に基づき、入学検定料を免除することがある。
- 3 前項の入学検定料の免除の詳細は、別に定める。

第25条 入学許可を得た者は、指定期日までに所定の書類を提出し、定められた学費を納入しなければならない。

2 本大学の複数の学部・学科・コース（以下「学部等」という。）の入学許可を得て、一方の学部等の学費を納入した者が、もう一方の学部等へ入学を希望する場合は、申請に基づき、既に納入した学費を、もう一方の学部等の学費に振替を認めることがある。

3 前項の振替の詳細は、別に定める。

第26条 保証人は2名とし、その1名は父又は母（父母のいない者は、これにかわる親戚等）とする。

2 保証人は、その学生の在学中は、本人にかかわる一切の事件につき、連帯の責任を負わなければならない。保証人が転籍、転居等をしたときは、その旨直ちに届け出なければならない。

3 保証人が死亡したとき、又はその資格を失ったときは、あらたに保証人を定めて、届け出なければならない。

第27条 学生が疾病その他やむを得ない事由により、休学しようとするときは、保証人連署のうえ、春学期又は秋学期授業開始日までにその旨願い出て、許可を得なければならない。

2 休学期間は、1年又は半年とする。

3 休学の期間は、通算して4年を超えることができない。

4 休学期間は、第3条並びに第23条第4項及び第5項に定める修業年限、在学年限には算入しない。

第27条の2 学生は、在学中当該学部教授会が本人の教育上有益と認め、学長が承認した場合に限り、本学の認定する外国の大学に留学することができる。

2 留学の期間は、第3条並びに第23条第4項及び第5項に定める修業年限及び在学年限に算入できる。

3 留学の取扱いについては、別にこれを定める。

第28条 学生が、疾病その他やむを得ない事由により、退学しようとするときは、保証人連署のうえ、その旨願い出なければならない。

第29条 学長は学力劣等にして成業見込みなしと認める者、又は出席常でない者を、当該学部教授会の審議を経て、論旨退学させることがある。

第30条 学長は品行不良の者、学業怠慢の者、学校の秩序を乱した者、その他学生としての本分に反した者で、当該学部教授会において懲戒の対象となりうると認められたときには、けん責、停学又は退学に処することができる。

2 前項の懲戒に関する規程は、別に定める。

第30条の2 次の各号のいずれかに該当する者は、除籍する。ただし、第1号については、該当学年末（秋学期入学者は春学期末）、また第2号並びに第3号については、該当学期末に除籍する。

(1) 学費の納入を怠り、督促を受けても納入しない者

(2) 在学期間が第3条第2項並びに第23条第4項及び第5項に規定する在学年限を超える者

(3) 学費未納で履修科目の登録をしていない者

第30条の3 退学者及び前条第1項第1号又は第3号により除籍された者が、保証人連署のうえ、再入学を願い出た場合は、それを許可することがある。

なお、除籍された者が再入学を願い出た場合は、事前に未納学費を完納しなければならない。

第30条の4 再入学許可を得た者は、指定期日までに所定の書類を提出し、定められた学費を納入しなければならない。

第8節 科目等履修生、聴講生及び外国人留学生

第31条 各学部を設置する一又は複数の授業科目を履修し単位を修得しようとする者があるときは、相当の資格があると認められた者につき、科目等履修生とすることができる。

2 科目等履修生のうち、他の大学の学生で、協定に基づき本大学の授業科目を履修する者については、交流学生又は単位互換履修生として受け入れることができる。

第32条 科目等履修生が履修した授業科目について試験を受け合格したときは、所定の単位を与える。

2 前項に定めるもののほか、科目等履修生に関する内規は、別に定める。

第33条 削除

第34条 削除

第35条 各学部を設置する一又は複数の授業科目を聴講しようとする者があるときは、相当の資格があると認められた者につき、聴講生とすることができる。

第36条 聴講生に関する内規は、別に定める。

第36条の2 外国人留学生に関する内規は、別に定める。

第9節 学 費

第37条 在学生の学費は、春学期及び秋学期の学年暦に定める日までに納入しなければならない。ただし、春学期の学費を納入するときに、当該年度の秋学期の学費も納入することができる。

2 外国人留学生（特別学生）研修料は、春学期及び秋学期の学年暦に定める日までに納入しなければならない。

3 履修料及び聴講料は、所定の期間内に納入しなければならない。

第38条 学費は、入学金、授業料（履修料、聴講料、研修料を含む。）、教育充実費、実験実習料、特別在籍料及び休学在籍料とし、その額は、別表Iから別表Iの4にこれを定める。

2 協定に基づくダブルディグリープログラムにより、本大学から1学期間以上留学する者は、特別在籍料を納入するものとし、入学金を除く他の学費の納入を要しない。

3 休学を許可された者は、休学在籍料を納入するものとし、入学金を除く他の学費の納入を要しない。

4 第31条第2項に定める、協定に基づき本大学の授業科目を履修するため、他の大学から受け入れた交流学生及び単位互換履修生の学費については、当該大学との協定に基づき設定する。

5 いったん納入した学費は、返還しない。ただし、入学許可を得た者で、入学日の前日までに入学手続の取消しを願い出たものについては、入学金又はこれに相当する金額を除く学費を返還することがある。

6 履修科目の登録に際して実験実習料を要する科目及びその実験実習料については、別に定める。

7 退学者又は除籍された者については、別に定める場合を除き、当該学期の学費を徴収する。

8 第30条第1項に基づく停学に処せられた者については、その期間中も学費を徴収する。

第39条 やむを得ない事情があると認められる場合は、申請に基づき、学費（特別在籍料及び休学在籍料を除く。）を延納又は分納することができる。

2 前項の学費の延納又は分納の詳細は、別に定める。

第39条の2 本大学は、大学等における修学の支援に関する法律に基づき、授業料及び入学金の減免を行う。

2 前項の授業料及び入学金の減免の詳細は、別に定める。

第39条の3 災害等の特別な事情により学費の納入が困難であると認められる者には、申請に基づき、学費の一部を免除することがある。

2 前項の学費の一部免除の詳細は、別に定める。

第3章 附属施設

第40条 図書館を設け、学生の自由な研究に資する。

2 大学には学部研究室、実験室、研究所等を設ける。

第41条 寄宿舎を設け、通学に不便な者等一部学生を入舎させる。

第42条 学生支援機構保健センターを設け、教職員及び学生の保健医療に当る。

附 則

1 この学則は、2005年4月1日から施行する。

2 第27条第3項の規定は、1989年度入学生から適用する。

3 第9条に規定する教育職員免許状を得るための資格（高等学校地理歴史・公民科）については、1990年度入学生から適用する。

4 第7条、第16条は、知識工学科設置、機械工学科、機械工学第二学科の機械システム工学科、エネルギー機械工学科への名称変更及び工業化学科、化学工学科の機能分子工学科、物質化学工学科への改組転換により1994年4月1日から改正施行する。

5 第7条は、学部第2部を1997年度入学生から学生募集停止及び文学部第1部、法学部第1部、経済学部第1部、商学部第1部の文学部、法学部、経済学部、商学部への名称変更により1997年4月1日から改正施行する。

第16条は、文学部英文学科、文化学科国文学専攻、法学部法律学科、政治学科、経済学部、商学部には昼間主コース、夜間主コースを設置。これにともなう学部、学科の収容定員増加変更により1997年4月1日から改正施行する。

なお、各学部の第2部は、当該学部の第2部に在学する者がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。（1997年4月1日改正）

6 第7条、第16条は、神学部には神学科、経済学部には経済学科、商学部には商学科の学科名明示により、1999年4月1日から改正施行する。（1999年4月1日改正）

7 第7条、第16条は、文学部社会学科新聞学専攻のメディア学専攻への名称変更、政策学部政策学科、工学部情報システムデザイン学科及び環境システム学科の設置により2004年4月1日から改正施行する。（2004年4月1日改正）

8 第7条は、文学部の改組・再編による文化学科、社会学科及び各学科内の専攻の廃止、それに伴う文学部哲学科、心理学科、美学芸術学科、文化史学科、国文学科及び社会学部社会学科、社会福祉学科、メディア学科、産業関係学科、教育文化学科の設置並びに文化情報学部文化情報学科の設置により2005年4月1日から改正施行する。

第16条は、文学部の改組・再編に伴う学部・学科の設置及び文化情報学部の設置並びに法学部及び経済学部の昼間主コース、夜間主コースの廃止により2005年4月1日から改正施行する。

なお、廃止する文化学科及び社会学科の各専攻並びに法学部

及び経済学部の昼間主コース及び夜間主コースは、2005年度より学生募集を停止する。ただし、各学科・専攻及びコースは、当該学科・専攻及びコースに在学する者がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。（2005年4月1日改正）

9 第13条に規定する試験の成績評価は、2004年度第1年次入学生から適用し、2003年度以前の入学生については、従前の規程による。

10 第15条に規定する学位は、2005年度第1年次入学生から適用し、2004年度以前の入学生については、従前の規程による。

11 第30条の3に規定する再入学は、2004年度第1年次入学生から適用する。

12 第8条の別表Ⅱの各学部教育課程表は、2005年度第1年次入学生から適用し、2004年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。

13 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2005年度入学生に適用する。2004年度以前の入学生については、従前の学費による。

14 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、休学在籍料については、2003年度以降在学の学生に適用する。ただし、2002年度以前の入学生のうち、従前の学費による休学中の学費が休学在籍料を下回る場合は、その額とする。

附 則

1 この学則は、2006年4月1日から施行する。

2 第7条及び第16条は、工学部知識工学科の名称変更により、改正・施行する。なお、知識工学科は、2006年度より学生募集を停止する。ただし、当該学科は、当該学科に在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規定は、従前によるものとする。

3 第8条の別表Ⅱの各学部教育課程表は、2006年度第1年次入学生から適用し、2005年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。

4 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2006年度入学生に適用する。2005年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

1 この学則は、2007年4月1日から施行する。

2 第16条は、文学部英文学科及び国文学科の昼間主コース、夜間主コースの廃止により、改正・施行する。なお、文学部英文学科及び国文学科の昼間主コース及び夜間主コースは、2007年度より学生募集を停止する。ただし、当該コースは、当該コースに在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

3 第8条の別表Ⅱの各学部教育課程表は、2007年度第1年次入学生から適用し、2006年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。

4 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2007年度入学生に適用する。2006年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

1 この学則は、2008年4月1日から施行する。

2 第7条は、理工学部数理システム学科、生命医科学部医工学科、医情報学科、医生命システム学科及びスポーツ健康科学部スポーツ健康科学部の設置並びに工学部、機能分子工学科及び物質化学工学科の理工学部、機能分子・生命化学科及び化学システム創成工学科への名称変更により、改正・施行する。

第16条は、政策学部政策学科の昼間主コース及び夜間主コースの廃止、理工学部数理システム学科、生命医科学部及びスポーツ健康科学部の設置並びにこれにともなう学部・学科の収容定員変更及び工学部、機能分子工学科及び物質化学工学科の理工学部、機能分子・生命化学科及び化学システム創成工学科への名称変更により改正・施行する。

なお、政策学部政策学科の昼間主コース及び夜間主コース並びに工学部は、2008年度より学生募集を停止する。ただし、各学部・学科及びコースは、当該学部・学科及びコースに在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

3 第8条の別表Ⅱの各学部教育課程表は、2008年度第1次入学生から適用し、2007年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。

4 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2008年度入学生に適用する。2007年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

1 この学則は、2009年4月1日から施行する。

2 第7条は、心理学部心理学科の設置及びそれともなう文学部心理学科の廃止により、改正・施行する。

第16条は、心理学部心理学科の設置及びそれともなう文学部心理学科の廃止並びに学部・学科の収容定員変更により改正・施行する。

なお、文学部心理学科は、2009年度より学生募集を停止する。ただし、文学部心理学科は、当該学科に在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

3 第8条の別表Ⅱの各学部教育課程表は、2009年度第1次入学生から適用し、2008年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。

4 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2009年度入学生に適用する。2008年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

1 この学則は、2010年4月1日から施行する。

2 第8条の別表Ⅱの各学部教育課程表は、2010年度第1次入学生から適用し、2009年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。

3 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2010年度入学生に適用する。2009年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

1 この学則は、2011年4月1日から施行する。

2 第7条及び第16条は、グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科の設置により、改正・施行する。

3 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2011年度第1次入学生から適用し、2010年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

附 則

1 この学則は、2012年4月1日から施行する。

2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2012年度第1次入学生から適用し、2011年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

附 則

1 この学則は、2013年4月1日から施行する。

2 第7条は、グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科の設置により、改正・施行する。

第16条は、学部・学科の収容定員変更、商学部商学科の昼間主コース及び夜間主コースの廃止並びにグローバル地域文化学部グローバル地域文化学科の設置により、改正・施行する。

なお、商学部商学科の昼間主コース及び夜間主コースは、2013年度より学生募集を停止する。ただし、当該コースは、当該コースに在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

3 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2013年度第1次入学生から適用し、2012年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

附 則

1 この学則は、2014年4月1日から施行する。

2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2014年度第1次入学生から適用し、2013年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

附 則

1 この学則は、2015年4月1日から施行する。

2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2015年度第1次入学生から適用し、2014年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

3 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2015年度入学生に適用する。2014年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

1 この学則は、2016年4月1日から施行する。

2 留学生別科は、2016年度より学生募集を停止する。ただし、当該組織に在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

3 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2016年度第1次入学生から適用し、2015年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

- 4 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2016年度入学生に適用する。2015年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2017年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2017年度第1年次入学生から適用し、2016年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 3 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2017年度入学生に適用する。2016年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2018年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2018年度第1年次入学生から適用し、2017年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 3 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2018年度入学生に適用する。2017年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2019年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、

2019年度第1年次入学生から適用し、2018年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

- 3 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2019年度入学生に適用する。2018年度以前の入学生については、従前の学費による。

なお、再入学生の入学金に関する規定のただし書きについては、2020年4月1日以降に再入学する学生に適用する。

- 4 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、特別在籍料については、2019年4月1日以降に派遣を決定する学生に適用する。

附 則

- 1 この学則は、2020年4月1日から施行する。
- 2 第7条及び第16条は、理工学部エネルギー機械工学科の名称変更により改正・施行する。

なお、理工学部エネルギー機械工学科は、2020年度より学生募集を停止する。ただし、当該学科は、当該学科に在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

- 3 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2020年度第1年次入学生から適用し、2019年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

- 4 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2020年度入学生に適用する。2019年度以前の入学生については、従前の学費による。

別表 I 学 費

入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料

(年額)

		入 学 金	授 業 料	教育充実費	*実験実習料
神 学 部 文 学 部 社 会 学 部 法 学 部 経 済 学 部 商 学 部 政 策 学 部 グローバル地域文化学部	第 1 年次	200,000円	870,000円	149,000円	
	第 2 年次		895,000円	157,000円	
	第 3 年次		900,000円	165,000円	
	第 4 年次		905,000円	173,000円	
文化情報学部	第 1 年次	200,000円	925,000円	160,000円	30,000円
	第 2 年次		952,000円	169,000円	30,000円
	第 3 年次		959,000円	178,000円	30,000円
	第 4 年次		966,000円	187,000円	70,000円
理 工 学 部 (数理システム 学科を除く) 生命医科学部	第 1 年次	200,000円	1,231,000円	225,000円	78,000円
	第 2 年次		1,266,000円	237,000円	109,000円
	第 3 年次		1,281,000円	249,000円	140,000円
	第 4 年次		1,296,000円	261,000円	140,000円
理 工 学 部 (数理システム 学科)	第 1 年次	200,000円	1,231,000円	225,000円	20,000円
	第 2 年次		1,266,000円	237,000円	20,000円
	第 3 年次		1,281,000円	249,000円	30,000円
	第 4 年次		1,296,000円	261,000円	90,000円
ス ポ ー ツ 健 康 学 部	第 1 年次	200,000円	925,000円	160,000円	50,000円
	第 2 年次		952,000円	169,000円	80,000円
	第 3 年次		959,000円	178,000円	100,000円
	第 4 年次		966,000円	187,000円	100,000円
心 理 学 部	第 1 年次	200,000円	973,000円	168,000円	25,000円
	第 2 年次		1,001,000円	177,000円	30,000円
	第 3 年次		1,009,000円	186,000円	55,000円
	第 4 年次		1,017,000円	195,000円	90,000円
グ ローバル・ コ ミュニケー シ ョ ン 学 部	第 1 年次	200,000円	973,000円	168,000円	
	第 2 年次		1,001,000円	177,000円	
	第 3 年次		1,009,000円	186,000円	
	第 4 年次		1,017,000円	195,000円	

* 実験実習料については、文化情報学部、理工学部、生命医科学部、スポーツ健康科学部及び心理学部のみ徴収する。

- (1) 授業料、教育充実費及び実験実習料については、各々2分の1を春学期学費及び秋学期学費とする。
- (2) 4年を超えて在籍した場合（再修生）の学費は、第4年次の学費を適用する。
- (3) 転入学生及び編入学生の入学金は、200,000円とし、授業料、教育充実費及び実験実習料は転入学又は編入学を許可された年次に在籍する学生と同額とする。ただし、本学卒業生に限り、入学金は2分の1とする。
- (4) 再入学生の入学金は、100,000円とし、授業料、教育充実費及び実験実習料は、再入学を許可された年次に在籍する学生と同額とする。ただし、学費未納により学年末をもって除籍された者が翌年度4月30日までに再入学手続をする場合及び春学期末をもって除籍された者が次の秋学期10月31日までに再入学手続をする場合の入学金は、50,000円とする。

ダブルディグリープログラム による留学期間	特別在籍料
1 年	300,000 円
1 学期	150,000 円

休学在籍料

休 学 期 間	休学在籍料
1 年	120,000 円
半 年	60,000 円

・母国における兵役義務による休学が認められた者は、休学在籍料の納入を要しない。

別表 I の 2 履修料

履修登録料	全 学 部	25,000 円
履 修 料 (1 単位につき)	神、文、社会、法、経済、商、 政策、グローバル地域文化学部	20,000 円
	文化情報、スポーツ健康科学部	21,000 円
	理工、生命医科学部	28,000 円
	心理、グローバル・コミュニケーション学部	22,000 円

- (1) 履修料の総額が当該年度の第1年次の「授業料及び教育充実費の合計額」を超えるときは、その額にとどめる。
- (2) 本学出身者及び前年度から継続の履修生の履修登録料は、2分の1とする。
- (3) 学期をまたがって履修する場合、履修登録料は、重複して徴収しない。
- (4) 複数の学部併願する場合、履修登録料は、重複して徴収しない。

別表 I の 3 聴講料

聴講登録料	全 学 部	25,000 円
聴 講 料 (1 単位につき)	神、文、社会、法、経済、商、 政策、グローバル地域文化学部	13,000 円
	文化情報、スポーツ健康科学部	14,000 円
	理工、生命医科学部	19,000 円
	心理、グローバル・コミュニケーション学部	15,000 円

- (1) 聴講料の総額が当該年度の第1年次の「授業料及び教育充実費の合計額」を超えるときは、その額にとどめる。
- (2) 本学出身者及び前年度から継続の聴講生の聴講登録料は、2分の1とする。
- (3) 学期をまたがって聴講する場合、聴講登録料は、重複して徴収しない。
- (4) 複数の学部併願する場合、聴講登録料は、重複して徴収しない。

別表 I の 4 外国人留学生（特別学生）入学金及び研修料

(年額)

	入 学 金	研 修 料
神学部 文学部 社会学部 法学部 経済学部 商学部 政策学部 グローバル地域文化学部	25,000 円	400,000 円
文化情報学部 スポーツ健康科学部	25,000 円	420,000 円
理工学部 生命医科学部	25,000 円	560,000 円
心理学部 グローバル・コミュニケーション学部	25,000 円	440,000 円
グローバル教育センター 日本語・日本文化教育センター	25,000 円	600,000 円

- (1) 研修料については、2分の1を春学期学費及び秋学期学費とする。なお、年度内の在学期間が7月以内の場合、研修料は半額とする。
- (2) 特別学生が正規課程に進学した場合、正規課程の入学金は特別学生時の入学金相当額を差し引いた額とする。
- (3) 期間延長者（同志社大学外国人留学生内規第4条第2項該当者）については、重複して入学金を徴収しない。また、研修料は入学年度の額を適用する。
- (4) 秋学期入学者の学費については、入学年度の春学期入学者の学費を適用する。
- (5) 特別学生が、年度内に20単位（グローバル教育センター及び日本語・日本文化教育センターは、30単位）を超えて科目登録をする場合は、超過する分1単位につき上記入学金及び研修料のほかに、学部授業科目を登録する場合は学則別表Iの2に定める履修料相当額を、ビジネス研究科ビジネス専攻を除く大学院授業科目を登録する場合は大学院学則別表Iの2に定める履修料相当額を、ビジネス研究科ビジネス専攻授業科目を登録する場合は専門職大学院学則別表Iの2に定める履修料相当額を、グローバル教育プログラム科目、日本語・日本文化教育プログラム科目及び日本語・日本文化教育科目を登録する場合は学則別表Iの2に定める神、文、社会、法、経済、商、政策、グローバル地域文化学部の履修料相当額を研修料として納入すること。

- (6) 研修料の総額が当該年度の第1年次の授業料を超えるときは、その額にとどめる。
- (7) 外国の大学の教育計画で在学する特別学生又は本学と特定の外国の大学との協定により在学する特別学生その他特別の事情のある場合は、部長会の審議を経てこの学費を適用しない場合がある。

別表Ⅰの5 入学検定料

区 分		金 額
一般選抜入学試験 推薦入学試験 転入学試験 編入学試験		35,000 円
大学入試センター試験を利用する 入学試験	個別学力検査を課す場合	25,000 円
	個別学力検査を課さない場合	15,000 円
アドミッションズオフィスによる入学者選抜	第1次審査	25,000 円
	第2次審査	10,000 円
推薦選抜入学試験 自己推薦入学試験 その他特別入学試験		35,000 円
推薦選抜入学試験における二段階選考 自己推薦入学試験における二段階選考 その他特別入学試験における二段階選考	第1次選考	10,000 円
	第2次選考	25,000 円
外国人留学生入学試験 その他外国人留学生特別入学試験 外国人留学生転入学試験 外国人留学生編入学試験	書類選考および学部独自試験を課す場合	15,000 円
	書類選考のみの場合	10,000 円
グローバル・コミュニケーション学部 (日本語コース) 入学試験	書類選考および学部独自試験を課す場合	15,000 円
	書類選考のみの場合	10,000 円
国際教育インスティテュート（国際教養コース）入学試験		15,000 円

別表Ⅱ 各学部人材養成目的及び教育課程表（省略）

学 年 暦

別に定める「学年暦」は、年間の行事を示し特別の通知・掲示がない限り、このとおり行われる。行事の詳細については、その都度指示する。

学 籍 番 号

- 1 学生には、入学と同時に学籍番号が付与され、在学する期間を通じて変わらない。
- 2 第2年次転入学生及び編入学生には、第2年次生の入学年度を冠した学籍番号が付与される。
- 3 第3年次転入学生及び編入学生には、第3年次生の入学年度を冠した学籍番号が付与される。
- 4 再入学生には、再入学を許可された年次に該当する入学年度を冠した学籍番号が付与される。

学 生 証

- 1 学生証は、本学の学生であることを証明するもので、常に携帯しなければならない。
- 2 学生証は、卒業、退学及び除籍の場合は、直ちに返納しなければならない。
- 3 学生証を紛失したときは、直ちに届け出て再交付を受けなければならない。ただし、別に定める手数料を納入することを要する。
- 4 学生証は、他人に貸与又は譲渡してはならない。

履修科目の登録

- 1 履修する科目は、学年暦に定められた期間に登録しなければならない。ただし、在学留学が認められた場合は、これによらないことがある。
- 2 合格となった科目は、再度登録履修することはできない。
- 3 各年次で登録履修できる単位数は、春学期及び秋学期合計50単位に満たない範囲内において学部の定めるところによる。
- 4 前項の規定にかかわらず、転入学生及び編入学生の登録履修できる最高単位数は、学部の定めるところによる。

学 業 成 績

- 1 学修の成果は、定められた期間に実施される定期試験、臨時に行われる試験及び授業内に行われる多面的評価等に基づき、成績として評価される。
- 2 成績は、成績原簿に記録される。
- 3 不合格となった科目を再履修し、合格となった場合は、直近の不合格の評価のみ変更される。

試 験

- 1 試験上の注意
 - (1) 学費未納のままでは受験できない。
 - (2) 未登録の授業科目は、受験できない。
 - (3) 授業日数の3分の2以上の出席がない場合は、科目担当者の判断によって、受験資格を取り消すことがある。
 - (4) 試験には、必ず学生証を持参しなければならない。
 - (5) 試験に15分以上遅刻した者は、受験を許さない。また、試験開始後30分経過するまでは退室できない。
 - (6) 論文・レポート試験及びe-learning等 Learning Management System(LMS)による試験に関する注意事項等は別に定める。
 - (7) 試験にかかる不正行為があつて、当該学部教授会がそれを認定した場合は、その試験が実施された学期中の全科目を不合格とし、これを公表する。ただし、当該学部が定める科目については除く。
 - (8) その他、試験に関する注意事項等は別に定める。
 - (9) 試験上の注意は授業内に行われる多面的評価に適用することがある。
- 2 追 試 験
 - (1) 病気又はやむを得ない事由のために、定期試験又は学部教授会が認める臨時試験を受験できなかった者に追試験を行うことがある。やむを得ない事由は別に定める。
 - (2) 受験希望者は、追試験願を、当該科目試験終了日から3日以内に提出しなければならない。ただし、課外活動のため受験できない場合、追試験願は事前に提出し承認を受けなければならない。
 - (3) 追試験願には、当該試験を受験できなかった事由を証明する書類を添付しなければならない。必要な証明書類は別に定める。
 - (4) 1科目につき1,000円の追試験料を納入しなければならない。

届書・願書

届書及び願書には、次のようなものがある。

- 1 届 書
 - (1) 欠 席 届 授業科目担当者名明記、理由書(診断書等)添付のこと。
 - (2) 改 姓(名)届 戸籍抄本添付のこと。
 - (3) 住所変更届 新旧住所併記のこと。
 - (4) 保証人変更届 新旧保証人併記のこと。
- 2 願 書
 - (1) 休 学 願 理由書(診断書等)添付のこと。
 - (2) 退 学 願 理由書添付のこと。

- (3) 再入学願 理由書添付のこと。
- (4) 在学留学願 留学する大学の入学許可書添付のこと。
- (5) 転学部・転学科願 理由書添付のこと。
- (6) 追試験願 理由及び受験科目名記載のこと。

以上の各種届書及び願書は、所定様式により提出する。必要によっては、当該学部教授会の審議を経て処理される。

教室使用願、物品使用願等は、願い出責任者を明記のうえ、教育支援機構教務部に提出すること。

再入学

- 1 退学日又は除籍日から5年以内は、当該学部教授会の審議を経て、再入学を許可する。5年を経過したときは、試験のうえ、教授会の判定によって再入学を許可する。
- 2 再入学の時期は、学期の始めとする。
- 3 再入学を許可する学部・学科等は、退学又は除籍時の学部・学科等とする。ただし、退学又は除籍時の学部・学科等が存在しない場合及び学生募集が停止されている場合は、当該学生の再入学願を審議する学部教授会は、学長が指定する。
- 4 再入学を許可する年次、修業年限及び在学年限は、再入学前に在籍していた期間により定める。
- 5 再入学生生の教育課程は、再入学を許可された年次に在籍する学生と同様とする。

転学部・転学科

- 1 転学部及び転学科は、やむを得ない事情の生じた場合に限り、第2年次から第3年次に進むとき、関係学部教授会の審議を経て許可することがある。なお、学部教授会が特に必要と認めた場合は、第1年次から第2年次に進むときも当該学部内において転学科を許可することがある。
- 2 いったん転学部・転学科を許可した学生の再転学部・転学

科は認めない。

- 3 転学部・転学科願書の受付期限は秋学期講義最終日とし、許可決定の時期は、当該年度の終わりとする。

学士入学

学士入学は、転入学・編入学試験を受けなければならない。ただし、本学卒業生は、同一学部学科への学士入学は認められない。

免許資格課程登録料

免許資格課程を登録する者は、次の各号の免許資格課程登録料を納入しなければならない。

- (1) 教職課程 30,000円
- (2) 博物館学芸員課程 10,000円
- (3) 図書館司書課程 10,000円

- 2 免許資格課程登録料の詳細は、別に定める。

教育実習費

教育実習を登録する者は、登録と同時に実習費を納めなければならない。

諸会費

本学が代理徴収を行う学会、父母会及び卒業生団体の諸会費は、所定の期日までに納入しなければならない。

定期健康診断

学生は、毎年、学期始めに行う定期健康診断を必ず受けなければならない。疾病その他やむを得ない理由によって定期健康診断を受けることができなかった者は、その理由のなくなった後、速やかに受けなければならない。

外国留学に関する諸規程

外国の大学に留学する学生の取扱いに関する内規

(設置)

第1条 本学の学部又は大学院の学生が、本学の教育課程の一環として学則第27条の2、大学院学則第20条の2、専門職大学院学則第29条又は法科大学院学則第15条により留学する場合は、この内規の定めるところによる。

(教育機関の定義)

第2条 この内規にいう外国の大学とは、外国における正規の高等教育機関で学位授与権を有するもの、又はこれに相当する教育機関をいう。

2 外国の大学の調査認定は、学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会が行う。

(留学の定義)

第3条 この内規にいう留学とは、本学の許可を受けて外国の大学に在学し、科目を履修し、又は研究指導を受けることをいう。

(条件)

第4条 この内規の適用を受けて留学する学生は、次の要件を満たさなければならない。ただし、大学院学生には適用しない。

- (1) 本学に1年以上在学していること。
- (2) 30単位以上修得していること。

2 前項第2号は、当該学部教授会の認める特別な事情がある場合には、適用しない。

(学籍)

第5条 この内規の適用を受けて留学する学生の本学学籍上の取扱いは、在学留学とし、休学としない。ただし、学生が休学を認められ、外国の大学で学修する場合は、この内規は適用しない。

(期間)

第6条 在学中に留学できる期間は、1年以内とする。在学留学期間の算定は、留学先大学の別にかかわらず、当該教育課程における在学留学期間の通算にて行う。

2 当該学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会の認める特別な事情がある場合は、1年間を限度として、在学留学期間の延長を許可する。

(履修)

第7条 留学する大学での履修については、留学前に留学する大学の授業科目を検討した上、当該学部又は研究科の指導を受けなければならない。

(学生納付金)

第8条 この内規の適用を受けて留学する学生は、留学中所定の学生納付金を納入しなければならない。

(手続)

第9条 外国の大学に留学する学生で、この内規の適用を希望する場合は、在学留学願を当該学部長又は研究科長を通じて学長に提出するものとする。

2 出発・帰国に際しては、留学出発・帰国届を当該学部長又は研究科長を経て、学長に提出しなければならない。

3 在学留学期間の延長を願い出る場合は、在学留学延長願を当該学部長又は研究科長を通じて、学長に提出するものとする。

(単位認定)

第10条 単位認定を受けようとする者は、帰国後速やかに、次に掲げる必要書類(留学した大学の発行するもの)を添付した取得単位認定願を、当該学部長又は研究科長に提出するものとする。

- (1) 成績証明書(時間数、単位数、科目名を明記したもの)
- (2) 指導教員又はこれに準ずる教員の所見を記したもの
- (3) 受講した科目の内容を説明した教授細目
- (4) 大学履修要項

2 当該学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会は、関係機関と協議の上審議し、留学した大学での取得単位を学則の定めるところにより認定することができる。

(帰国後の登録及び履修)

第11条 留学した学生の帰国直後の春学期又は秋学期における登録及び履修については、当該学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会が出国時までの履修状況等を勘案し、特別な措置を講ずることがある。なお、設置科目によっては関係機関との協議を必要とする。

(事務)

第12条 この内規に関する事務は、国際連携推進機構国際センター国際課が取り扱う。

(改廃)

第13条 この内規の改廃は、教務〔国際〕主任会議及び部長会の審議を経て、学長が決定する。

附 則

この内規は、2015年4月1日から施行する。

同志社大学外国協定大学派遣留学生に関する内規

(目的)

第1条 この内規は、同志社大学外国協定大学派遣留学生制度を設け、本学の外国協定大学に学生を派遣し、もって本学建学の精神である国際主義を体得した学生を養成することを目的とする。

(定義)

第2条 この制度による外国協定大学派遣留学生とは、本学と外国の大学との大学間協定に基づき、学長の推薦により、外国の大学に留学する学生をいう。

(取扱い)

第3条 外国協定大学派遣留学生として留学をする場合は、この内規によるほか、「外国の大学に留学する学生の取扱いに関する内規」の定めるところによる。

(出願条件)

第4条 外国協定大学派遣留学生として出願できる学生は、学力、人物共に優秀で本制度の趣旨をよく理解し、留学年度の4月1日現在、学部2年次生以上の者又は大学院に在学中の者とする。

(義務)

第5条 外国協定大学派遣留学生として留学を希望する学生は、募集要項に定める出願書類を指定された期日までに提出しなければならない。

(推薦方法)

第6条 外国協定大学派遣留学生は、学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会の推薦に基づき、教務〔国際〕主任会議の審議を経て、学長が候補者を決定し、留学先大学に推薦する。

(候補者の決定)

第7条 外国協定大学派遣留学生の最終決定は、留学先大学による当該留学生の受入れ決定に基づき、学長がこれを行う。

(留学期間)

第8条 留学期間は、留学先大学の正規の1年以内とする。ただし、当該学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会の認める特別の事情がある場合は、教務〔国際〕主任会議の審議を経て、学長が外国協定大学への在学留学期間の延長を認めることがある。

(事務)

第9条 この内規に関する事務は、国際連携推進機構国際センター国際課が取り扱う。

(改廃)

第10条 この内規の改廃は、教務〔国際〕主任会議及び部長会の審議を経て、学長が決定する。

附 則

この内規は、2015年4月1日から施行する。

学 業 履 修 に つ い て

本学のカリキュラム（教育課程）は、各学部・学科の教育上の目的を達成するために、学部ごとに定められています。本学において卒業するためには、所定の単位を修得し、この課程を修めなければなりません。

各学部のカリキュラムに定める授業科目の登録・履修にあたっての詳細な説明・手続については、本要項および各学部ごとに作成されている『登録要領』を参照してください。なお、各授業科目の内容については『シラバス』（CD-ROM版もあります）を参照してください。

障がいのある学生への受講に対する配慮

「見る」「聴く」「話す」「四肢を使って作業する」など、心身の機能障がいのため「社会的障壁」となる内容を含む科目（演習、実験、実習、語学など）については、「合理的配慮」として代替措置をとることが可能なものがあります。

登録前に、学部・研究科事務室までご相談ください。

単 位 制

単位制とは、各学部ごとに定められた授業科目を登録・履修し、試験に合格することによりそれぞれの授業科目の所定の単位を得、修業年限中に卒業に必要な単位数を修得していく制度です。

現在の我が国の大学制度は単位制度を基本としており、下記に記載している学則のとおり、1単位は、教室等での授業時間と準備学習や復習の時間を合わせて標準45時間の学修を要する教育内容をもって構成されています。授業だけでなく、準備学習や復習の時間の重要性をよく理解しておくようにしてください。

卒業必要単位数は学部によって異なるので、所属学部の欄を参照してください。学部授業科目の単位数の計算は、次の基準によります（学則第9条 3項 4項）。

- 3 授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、次の基準による。
 - (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本大学が定める時間の授業をもって1単位とする。
 - (2) 実験、実習、実技等については、30時間から45時間までの範囲で本大学が定める時間の授業をもって1単位とする。
 - (3) 第1号に規定する授業の方法と前号に規定する授業の方法を併用する場合の単位数の基準は、前2号に規定する基準を考慮して本大学が定める。
- 4 前項の規定にかかわらず、卒業論文等の授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定める。

授業時間

本学における授業時間は1講時について90分とし、これを2時間と計算しています。例えば、「春学期・週2時間」とは、春学期期間中に90分の授業が週1回行われるということであり、「秋学期・週4時間」とは、秋学期期間中に90分の授業が週2回行われるということです。

講 時	授 業 時 間
1	9 : 00 ~ 10 : 30
2	10 : 45 ~ 12 : 15
3	13 : 10 ~ 14 : 40
4	14 : 55 ~ 16 : 25
5	16 : 40 ~ 18 : 10
6	18 : 25 ~ 19 : 55
7	20 : 10 ~ 21 : 40

休 講

授業は、学年暦によって行われますが、担当者の公務、出張、学会、病気などによって休講となる場合もあります。休講は、担当者からの連絡により原則として1週間前から掲示しますが、当日になって連絡を受けて掲示する場合がありますから、必ず、登下校時に掲示を見る習慣をつけてください。なお、休講の掲示もなく、講義が始まらない場合は各キャンパスの教務センターへ申し出て、確かめるようにしてください。また、休講は本学ホームページでも確認することができます。学修支援システム（DUET）では個人別に登録している科目についての休講情報を確認できます。

補 講

補講が行われる場合には、教務部掲示板または学部掲示板に掲示しますので、日時、教室などをよく確認して受講してください。

集中講義

科目によっては、特定期間内に集中して行う講義（集中講義）があります。詳細については、すべて掲示によって連絡します。

授業教室

- (1) 学部授業時間割表は、科目登録・履修に必要な書類とともに、各自に配付されますが、それ以後の時間割変更および教室・担当者変更などは、すべて掲示でお知らせしますので、よく注意してください。なお、秋学期開講科目の学部授業時間割表は、9月中旬にあらためて配付します。
- (2) 開講当初の授業教室は、学部授業時間割表に記載しています。授業教室は登録者数の増減により変更することがありますので、掲示板で変更教室を確認のうえ、授業に出席してください。
- (3) 授業教室名はすべて略号と教室番号で記載されています（次頁表）。例えば、京田辺校地の場合「1-201」は知真館1号館201番教室（2階）、「KD202」は恵道館202番教室（2階）を、また、今出川校地の場合「Z地1（ZB1）」は尋真館地下1番教室（地階）、「S32」は至誠館32番教室（3階）を表すものです。
- (4) 授業教室は、臨時に変更することがあります。この場合は「臨時教室変更」として掲示しますので、その講時のみ変更された教室で受講してください。

〔京田辺キャンパス〕

略号	館名
(TC) 1	知真館1号館
(TC) 2	知真館2号館
(TC) 3	知真館3号館
KD	恵道館
TS	頌真館
MK	夢告館
JM	情報メディア館
RM	ローム記念館
KR	交隣館
RG	理化学館
IN	医心館
YE	有徳館西館
YM	有徳館東館
SC	至心館
KC	香知館
HS	報辰館
SO	創考館
CG	知源館
SJ	知証館南館 心理学実験室
D	知証館南館 電気系実験実習棟
IJ	知証館北館 機械系実験実習棟
MS1	知証館北館 機械実習工場
MS2	実習工場別棟
HC	訪知館
BJ	磐上館
KHH	香柏館高層棟
KHL	香柏館低層棟
DV	デイヴィス記念館
TW	体育シャワー棟

〔今出川キャンパス〕

N	寧静館
M	明德館
S	至誠館
K	弘風館
G	神学館
F	扶桑館
CL	クラーク記念館
H	博遠館
T	徳照館
KE	光塩館
RY	良心館

〔新町キャンパス〕

Z	尋真館
R	臨光館
IS	育真館
KS	溪水館

〔烏丸キャンパス〕

SK	志高館
----	-----

〔室町キャンパス〕

KMB	寒梅館
-----	-----

〔大阪サテライト〕

OS	大阪サテライト
----	---------

情報教室（京田辺キャンパス）

略称	教室名	館名
J M101	情報メディア館演習室1	情報メディア館1階
J M102 A～C	情報メディア館情報道場1～3	情報メディア館1階
J M201～206	情報メディア館201～206番教室	情報メディア館2階
J M301～306	情報メディア館301～306番教室	情報メディア館3階
J M402～406	情報メディア館402～406番教室	情報メディア館4階
T S101・102	頌真館101・102番教室	頌真館1階
TS202	頌真館202番教室	頌真館2階

情報教室（今出川キャンパス）

N地1～地3	寧静館地下1～3番教室	寧静館地階
N21～23	寧静館21～23番教室	寧静館2階
K21	弘風館21番教室	弘風館2階
RY307～315	良心館307～315番教室	良心館3階

情報教室（新町キャンパス）

R303・304	臨光館303・304番教室	臨光館3階
----------	---------------	-------

情報教室（烏丸キャンパス）

SK地1・地9	志高館地下1・地下9番教室	志高館地階
---------	---------------	-------

試験および授業内に行われる多面的評価について

本学の成績評価は、試験と授業内に行われる多面的評価により行います。

1. 試験

試験には下記の種類があります。

- (1) 定期試験
各学期末の定められた期間に行われる試験を定期試験といいます。
- (2) 臨時試験
定められた期間以外に行われる試験を臨時試験といいます。
- (3) 追試験
病気またはやむを得ない理由のために、定期試験または学部教授会が認める臨時試験を受験できなかった場合に限り行われる試験を追試験といいます。受験希望者は以下の点に注意してください。
a. 当該科目の試験終了日から3日以内(窓口業務休止日を除く)に、追試験願を所属学部・研究科窓口へ提出しなければならない。ただし、課外活動のために受験できない場合、追試験願は事前に提出し承認を受けなければならない。
b. 追試験願には、当該試験を受験できなかった事由を証明する以下の書類を添付しなければならない。
c. 1科目につき1,000円の追試験料を必要とする。ただし、裁判員制度および検察審査会制度を事由とする追試験については、追試験料を免除する。なお、追試験を未受験であった場合でも追試験料は返還しない。
d. 追試験は通常の試験と同等に評価される。減点はされない。
e. レポート試験は追試験の対象にはなりません。提出締切日・時間に突発的な事故等やむを得ない事由により、提出締切時間に間に合わなくなった場合は、必ず提出締切時間までに提出先に連絡を取り、指示を受けること。
f. 追試験も何らかの事情により受験できなかった場合には、これに対する追試験は実施しない。

対象事由例	必要な証明書類
本人の病気、怪我	医師の診断書（試験当日安静が必要である旨の記載が必要） 学校感染症の場合は、大学所定の「[学校において予防すべき感染症]罹患証明書」でも可
親族(2親等内)死亡 (適用期間は次のとおりとする。 ・死亡日を1日目とした7日以内。 ・死亡前日を1日目として遡った3日以内。)	死亡診断書、会葬案内等
教育実習	免許資格課程センター事務室の証明書
介護等体験	免許資格課程センター事務室の証明書
館園実習	免許資格課程センター事務室の証明書
社会福祉援助、精神保健福祉援助に関する実習	社会学部・社会学研究科事務室の証明書
就職試験(注1)	企業等が発行する就職試験受験証明書(大学所定用紙あり)
大学院入学試験	当該大学院が発行する受験証明書
正課科目のインターンシップ	キャリアセンター、または大学コンソーシアム京都が発行する証明書
大学コンソーシアム京都単位互換科目の定期試験	当該科目設置大学が発行する受験証明書
国家試験	当該試験の受験票
課外活動	事前届出に基づく学生支援センターの証明書
災害	被災証明書
交通機関の事故、不通(1時間以上(注2)の延着の場合に限る。)	交通機関の延着証明書
裁判員制度 ・裁判員候補者として裁判員等選任手続に参加 ・裁判員、補充裁判員として職務に従事	裁判所が発行する証明書
検察審査会制度 ・検察審査員、補充員として職務に従事	検察審査会事務局が発行する証明書

(注1) 採用に関わらないセミナー、説明会を除く。追試験の対象事由について判断しかねる場合は、キャリアセンターに問い合わせてください。

(注2) 1時間未満の場合は、その都度教務部で対応を決定する。

2. 試験上の注意

- (1) 受験のためには次の条件を備えていることが必要です。
 - a. 有効な登録がなされた科目であること。
 - b. 学費納入が済んでいること。
 - c. 科目担当者の指定する条件を備えていること。なお、授業日数の3分の2以上の出席がない場合は、科目担当者の判断によって、受験資格を取消すことがある。
- (2) 試験場においては次のことを守らなければなりません。
 - a. 指定された試験場で受験すること。
 - b. 必ず学生証を持参し、机上に提示すること。万一、持参しなかった場合は、その試験の始まる前に事務室で仮学生証の交付を受けること。

- c. 持ち込みを許された物以外はすべて鞆・袋などに入れること。
 なお、携帯電話（スマートフォン、PHS含む）、パソコン（モバイルPC等を含む）、タブレット端末、スマートウォッチ等の通信機器、携帯音楽プレーヤー等の携帯型録音再生機器等（以下「携帯機器類」という。）については、電源を切って鞆や袋などに入ること（携帯機器類は時計代わりの使用も認めない）。
- d. 試験開始より15分以上遅刻したものは受験できない。また、試験開始後30分を経過するまでは退室できない。
- e. 受験者は学生証と答案用紙の氏名との照合確認を受けること。
- f. 答案用紙の学生ID、氏名は必ずペン書とする。
- g. 試験を放棄する場合は答案用紙に学生ID、氏名を記入して提出すること。答案用紙を持ち帰ってはならない。
- h. その他すべて試験監督者の指示に従うこと。
- (3) 次の場合には、その答案は無効とみなされることがあります。
- a. 無記名の場合。
- b. 指定された試験場で受験しなかった場合。
- c. 氏名を訂正した場合。
- (4) 次の行為は、不正行為として取り扱います。
- a. 本人以外の者が、本人になりすまして試験を受けること。
- b. 試験を受験するにあたって、机上や衣服、身体等に書き込みをすること。
- c. 試験を受験するにあたって、持ち込みや使用を認められたものに書き込みをする等、本来の使用目的と異なる使い方をすること。
- d. 試験時間中に、カンニングペーパー類や持ち込みを許可されていない参考書・ノート類を持ち込んだり、他の受験生の答案を見ることが、他の人から答えを教わること。
- e. 試験時間中に、答えを教える等の他の受験生を利するような行為をすること。
- f. 答案用紙配付から回収までの私語や答案の見せ合い、交換をすること。
- g. その他、試験監督者の指示に従わないこと。
- (5) 次の行為は、不正行為として取り扱う場合があります。
- a. 試験時間中に、使用を認められていない器具を使用して解答すること。
- b. 試験監督者の試験開始の指示の前に解答を始めること。
- c. 試験監督者の試験終了の指示の後に、筆記用具や消しゴムを持ち続けていたり、解答を続けていたりすること。
- d. 試験場において、他の受験生の迷惑となる行為をすること。
- e. 試験時間中に、携帯電話（スマートフォン、PHSを含む）、パソコン（モバイルPC等を含む）、タブレット端末、スマートウォッチ等の通信機能を有する機器、携帯音楽プレーヤー等の携帯型録音再生機器等（以下「携帯機器類」という。）を身に付けていたり、指示された以外の場所・状態で保管していること。
- f. 試験時間中に、携帯機器類・時計等の音（着信、アラーム、振動音等）を鳴らすこと。

講時	試験時間
1	9:20～10:30
2	11:00～12:10
3	13:25～14:35
4	15:05～16:15
5	16:45～17:55
6	18:25～19:35
7	20:05～21:15

窓口受付時間（開講期間）

	月～金曜日	土曜日	
今 出 川 ※	今出川キャンパス教務センター 文学部、法学部、経済学部、今出川校地教務課、 免許資格課程センター事務室、 全学共通教養教育センター事務室	9:00～11:30 12:30～17:00 総合窓口 8:40～17:00	総合窓口のみ 8:40～11:30 12:30～17:00
	新町総合窓口 社会学部事務室、政策学部事務室	9:00～11:30 12:30～17:00 総合窓口 8:40～17:00	
	神学部事務室	9:00～11:30 12:30～17:00	閉室
	商学部事務室	9:00～11:30 12:30～17:00	
	グローバル地域文化学部事務室	9:00～11:30 12:30～17:00	
京 田 辺 ※	国際教育インスティテュート事務室 国際教養教育院事務室	9:00～11:30 12:30～17:00	閉室
	京田辺キャンパス教務センター 生命医科学部、スポーツ健康科学部、心理学部、 グローバル・コミュニケーション学部、 免許資格課程センター事務室、京田辺校地教務課	9:00～11:30 12:30～17:00	閉室
	文化情報学部事務室 理工学部事務室	9:00～11:30 12:30～17:00	閉室

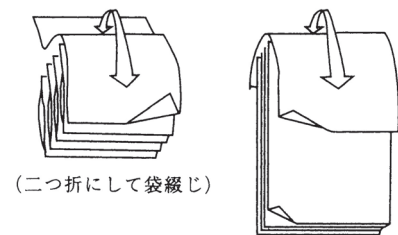
登録期間、休暇期間は受付時間が変わります。窓口受付時間が変更になる場合は、掲示によってお知らせします。
 ※ 教務センターの総合窓口では、一般的な質問や仮学生証発行、レポートの受付等を行います。

- g. その他、試験の公平性を損なう行為をすること。
- (6) 前2項の不正行為があつて、当該学部教授会がそれを認定した場合は、その試験が実施された学期中の全科目を不合格(2004年度生以降)または0点(2003年度生以前)とし、これを公表する(ただし、当該教授会が定める科目については除く)。

3. 論文・レポート試験の注意

- (1) 論文・レポート提出時は、次のことに注意すること。
- a. 論文・レポートには所定の表紙（同志社生協で販売又は、https://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/exam_type.htmlでダウンロード可）を付けること。
- b. 表紙およびレポート受領書は、ペン書きのこと。
- c. 学生証を持参のうえ、必ず本人が提出すること。郵送は認めない。
- d. 提出締切日・時間に遅れた論文・レポートは、受け付けない。ただし、提出締切日の突発的な事故等やむを得ない事由により、提出締切時間に間に合わない場合、必ず提出締切時間までに提出先に連絡を取り指示を受けること。
- e. 一度提出したレポートは、提出締切日前であっても加筆・修正はできない。
- f. レポート受領書は、評価が出るまで大切に保管すること。

〈見本〉 原稿用紙 レポート用紙



- (2) 論文・レポートに関する不正行為について。
 次のような論文・レポートの不正作成は、筆記試験におけると同様に不正行為として取扱い、教授会が認定した場合は学部一般内規に従って処分の対象となります。
- a. 論文・レポートの作成にあたって、他人の著作物やWEB上の情報等を参照・引用したにもかかわらず、引用部分の明示や出典の記載もなく、自身で作成したように記述すること。
- b. 他人が作成した論文・レポートを自分のものとして提出すること。
- c. 他人に依頼し作成された論文・レポートを自分のものとして提出すること。
- d. 他人に依頼されて論文・レポートを作成すること。
- e. 転記目的で他人が作成した論文・レポートの提供を受けること、また自身が作成した論文・レポートを転記目的で他人に提供すること。
- f. その他、論文・レポートの公平性を損なう行為をすること。

4. e-learning 等 Learning Management System (LMS) による試験に関する注意

e-learning等LMSによる試験を受験する場合は、次のことに注意すること。

- a. パスワードを他人に教えたり、IC学生証を貸し借りしたりしないこと。
- b. 上記行為による、なりすまし、代理解答は不正行為にあたり、当該学部教授会がそれを認定した場合は、通常の筆記試験と同等に処分の対象となる。

5. 授業内に行われる多面的評価について

評価の方法により、「1. (3)追試験」、「2. 試験場の注意」、「3. 論文・レポート試験の注意」、「4. e-learning等 Learning Management System (LMS) による試験に関する注意」を適用することがある。

学業成績

成績評価

(1) 2004年度生以降

- a. 学業成績は以下の基準にしたがいA、B、C、D、Fの5段階で評価され、D以上が合格、Fが不合格です。就職用成績証明書等、本学以外で使用するために発行する学業成績証明書には、D以上の評価を得た科目とその成績に加えて、履修した全ての科目のGPA (Grade Point Average) が記載されます。

判定基準

評価	評点	判定内容
A	4.0	特に優れた成績を示した
B	3.0	優れた成績を示した
C	2.0	妥当と認められる成績を示した
D	1.0	合格と認められる最低限度の成績を示した
F	0.0	合格と認められるに足る成績を示さなかった

- b. GPAは、A～Fの段階で評価された全科目の評価を評点に換算して、その単位数で加重平均することによって算出されます。GPAの算出方法は次のとおりです。

$$GPA = \frac{(A \times 4.0 + B \times 3.0 + C \times 2.0 + D \times 1.0 + F \times 0.0)}{(A + B + C + D + F)}$$

(A～F)はA～Fの評価が付いた科目の単位数の合計

(2) 2003年度生以前

- a. 学業成績の評価は、100点満点で60点以上が合格、それに満たないものは不合格です。ただし、就職用成績証明書等、本学以外で使用するために発行する学業成績証明書には優、良、可(英文の場合はA、B、C)による評価が使用されます。優(A)は100～80点、良(B)は79～70点、可(C)は69～60点です。
- b. 平均点は、合格点に達している科目の得点を、その単位数で加重平均することによって算出されます。加重平均の算出方法は次のとおりです。

$$\text{平均点} = \frac{(\text{各科目の得点} \times \text{単位数}) \text{の合計}}{\text{総単位数}}$$

成績発表

履修科目の成績は、春学期末(9月中旬)と秋学期末(3月下旬)に各自に通知します。それ以前の成績の照会には応じません。

採点質問

成績評価に関する質問や異議申し立てをしたい場合は、定められた成績通知日から1週間以内に、所属の学部・研究科窓口にて採点質問票を提出してください。

不合格科目

(1) 2004年度生以降

F評価であった科目を再び履修してD以上の評価を得た場合は、直近のF評価についてのみ新たな評価に変更されます。

ただし、一部の科目については取扱いが異なる場合がありますので、各学部の配布物等を参照してください。

(2) 2003年度生以前

不合格となった科目を再び履修して合格点を得た場合は、以前の不合格点は合格点に変更されます。

卒業の可否発表

卒業の可否の発表は2月下旬から3月上旬の卒業判定教授会終了後、各学生(父母住所宛)に通知します。それまでは、成績および卒業可否についての問い合わせには一切応じません。

クレーム・コミッティ制度

受講している科目の授業内容や授業方法に関する改善の要望がある場合は、所属の学部・研究科窓口にご相談ください。学生からの申し出を受けて、各学部等のクレーム・コミッティが授業担当者から事実関係を調査し、原因や対策について回答します。

なお、いかなる場合であっても、相談者の学生IDや氏名が授業担当者に明かされることはなく、また相談によって決して不利益を被ることはありません。

欠席届

授業に欠席し、その理由を授業担当者に伝える場合は、欠席届を利用します。欠席届の用紙は学部・研究科事務室または各キャンパス教務センターで配布していますので、必要事項を記入の上、授業担当者に直接提出してください。なお、欠席届は任意で提出するものですので、届出必要科目は各自で判断してください。

○提出の際の留意点

- ・欠席届は、欠席の事由を授業担当者へ伝える届です。本学には「公欠」の制度はありませんので、「追試験の対象となる事由」に該当する事由か否かにかかわらず、欠席届の取扱い(欠席扱いにしない・する等)は、担当者の判断に委ねられます。
- ・欠席の事由を客観的に証明する書類がある場合は、欠席届に添付して提出してください(コピーでも可)。

例) 病気の場合は「診断書」、就職試験の場合は「受験先企業等が発行する就職試験受験証明書(本学所定用紙あり)」など

※ ただし、欠席の事由が以下に該当する場合は、まずそれぞれの窓口で申し出て相談してください。

事由	相談窓口
学校感染症罹患による出席停止	所属の学部窓口
免許資格課程が必修としている 正課科目の実習（教育実習、博 物館実習、図書館演習）や介護 等体験に参加	免許資格課程センター事務室 (各キャンパス教務センター内)
資格取得に必修となっている 正課科目の実習に参加、など	当該科目の設置学部・研究科 事務室、所属の学部窓口
裁判員制度によるもの	所属の学部窓口
検察審査会制度によるもの	所属の学部窓口

交通機関の不通と暴風警報・特別警報発表に伴う 授業・試験の実施について（司法研究科以外）

交通機関が不通の場合および暴風警報、特別警報が発表された場合、授業ならびに試験の実施については、以下の措置をとります。

I. 交通機関の不通（原因の如何を問わず）の場合

- ・以下のいずれかに該当する交通機関の不通が発生した場合、発生時の次の講時からその日の授業・試験の一部あるいは全部についてその実施を中止します。
- ・その後の授業・試験の開始等措置は、以下の表のとおり、開通時刻により開始講時を決定します。（早朝からの不通が6時30分までに開通した場合は、平常通り授業を実施します。）
- ・該当交通機関での事故等による一時的な運転見合わせの際には、平常通り授業・試験を実施しますので、ご注意ください。

1. 対象となる交通機関

[今出川校地]

- イ. 京都市営バスと地下鉄が同時に全面不通の場合
- ロ. 阪急電車（京都河原町～大阪梅田間）、京阪電車（出町柳～淀屋橋間）、近鉄電車（京都～大和西大寺間、大和西大寺～大阪難波間）、JR（神戸～米原間）のうち、2以上の交通機関が同時に不通（全面または部分を問わず）の場合

[京田辺校地]

- イ. 京都市営バスと地下鉄が同時に全面不通の場合
- ロ. 阪急電車（京都河原町～大阪梅田間）、京阪電車（出町柳～淀屋橋間）、近鉄電車（京都～大和西大寺間、大和西大寺～大阪難波間）、JR（神戸～米原間、木津～京橋間）のうち、2以上の交通機関が同時に不通（全面または部分を問わず）の場合
- ハ. 近鉄電車（京都～大和西大寺間）が全面不通の場合

2. 交通機関開通時刻と授業・試験開始講時

開通時刻	授業・試験開始講時
6時30分までに開通	1講時から実施
6時31分から10時30分までに開通	3講時から実施
10時31分から15時30分までに開通	6講時から実施
15時31分以後に開通	全講時休講

II. 暴風警報あるいは特別警報発表の場合

- ・以下の区域において暴風警報あるいはなんらかの特別警報が発表された場合、発表時の次の講時からその日の授業・試験の実施を中止します。
- ・ただし、発表された時点で、すでに実施中あるいは開始直前の授業・試験については、警報の緊急性等を考慮の上で、大学がその中止を判断します。
- ・特別警報が発表された場合、該当地域は数十年に一度しかないような非常に危険な状況にあります。警報発表地域にいる学生は、各自ただちに命を守る行動をとってください。特別警報の種類は問いません。ただし、特別警報発表時に大学構内にいる学生は、大学の指示に従って行動してください。また自宅や通学中の学生で特別警報が発表された地域にいる場合は、自身の判断により、命を守るために最善と思われる行動をとってください。
- ・警報解除の後、危険が回避されたことが確認された場合には、以下の表のとおり、警報解除時刻により授業開始講時を決定します。それ以外の場合、状況判断の上、別途指示します。（早朝からの警報が6時30分までに解除となった場合は、平常通りの授業を実施します。）

1. 警報発表対象地域

- ・予報一次細分区域における
京都府南部、大阪府
- ・予報二次細分区域における
京都・亀岡、南丹・京丹波、山城中部、山城南部、大阪市、北大阪、東部大阪、南河内、泉州

■警報・注意報が市町村を対象区域として発表される※ようになっていることから、以下の表に示す市町村のいずれかに警報が発表された場合は、該当の予報二次細分区域に警報が発表されたものとして、授業・試験の実施は中止します。

※テレビやラジオの放送では、これまでどおり「市町村をまとめた地域の名称」で発表される場合があります。

京都府南部

予報二次細分区域	市町村
京都・亀岡	京都市、亀岡市、向日市、長岡京市、大山崎町
南丹・京丹波	南丹市、京丹波町
山城中部	宇治市、城陽市、八幡市、京田辺市、久御山町、井手町、宇治田原町
山城南部	木津川市、笠置町、和束町、精華町、南山城村

大阪府

予報二次細分区域	市町村
大阪市	大阪市
北大阪	豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市、摂津市、島本町、豊能町、能勢町
東部大阪	守口市、枚方市、八尾市、寝屋川市、大東市、柏原市、門真市、東大阪市、四条畷市、交野市
南河内	富田林市、河内長野市、松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村
泉州	堺市、岸和田市、泉大津市、貝塚市、泉佐野市、和泉市、高石市、泉南市、阪南市、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町

2. 警報解除時刻と授業・試験開始講時

警報が解除される時間帯によって、以下のとおり授業・試験を実施します。

警報解除時刻	授業・試験開始講時
6時30分までに解除	1講時から実施する。
9時30分までに解除	1・2講時は実施しない。3講時から実施する。
14時30分までに解除	1～5講時は実施しない。6講時から実施する。
14時31分時点で警報が発表中	全講時実施しない。

- Ⅲ. I、IIにかかわらず、授業・試験を行うことが困難あるいは危険であると学長が判断した場合、休講・中止とすることがあります。
- Ⅳ. 試験期間中にこの措置が適用された場合、当該試験の実施に関しては、必要に応じて大学HP、DUETあるいは学内掲示板等を利用して案内します。
- Ⅴ. 特別警報、暴風警報等の発表時には、必要に応じ、大学HP、DUETあるいは学内掲示板等を利用して、大学から学生に対して連絡を行います。
大学HP、DUET等を確認するようご注意ください。

以上

同志社大学生命医科学部

2020年4月1日

